

平成26年度事業報告書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

はじめに

当財団は、横浜市との連携のもと、横浜に関係した歴史の理解に資する国内外の資料や文化財の調査、研究、収集、保管および公開を行うとともに、歴史や文化財に関する普及啓発を行い、先人たちの歩みや積み上げてきた文化を市民共有のものとし、さらに次世代へ継承していくことで、ふるさと意識の醸成及び市民文化の発展に寄与することを目的としています。

今年度も、事業計画書、指定管理提案書に基づき、多くの市民の皆様方に親しんでいただけ様々な事業を展開してきました。とくに、ユーラシア文化館では大学と連携して開催した企画展で、これまでの最高の入館者数を記録し、開港資料館では企業と協働での企画展の開催や外部の研究団体との共同出版など、幅広い協働事業により成果を挙げてきました。また、歴史博物館の「大おにぎり展」、都市発展記念館の「団地展」など、親しみやすいテーマでの企画展が好評であり、マスコミでも多数紹介され話題となりました。

今年度においても、施設の枠を超え、財団の組織力を生かした事業を実施することにより、着実に成果をあげることができました。

実施事業

法人事業

I 財団本部事業

公益事業

I 埋蔵文化財センター事業

II 市史資料室事業

III 史跡等管理事業

IV 歴史博物館事業

V 開港資料館事業

VI 都市発展記念館事業

VII ユーラシア文化館事業

VIII 三殿台考古館事業

収益事業

I 歴史博物館収益事業

II 開港資料館収益事業

III 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業

(注) なお、新規、追加、さらには重点的に取り組んだ事業については、ゴシック文字で表記しています。

法人事業

I 財団本部事業

1 財団本部事業

事業調整、諸会議の運営等を実施し、円滑な組織運営を図りました。また、公益財団法人として、理事会・評議員会の開催、神奈川県への報告等を適正に執行いたしました。

	事業区分	事業内容
1	財団管理施設の 事業調整	(1) 諸会議の運営 ①役員会 月2回 ②企画会議 月1回 ③課長会 月2回程度 <主な検討項目> ①理事会・評議員会について～議題等の検討 ②「協約」目標について ③ハラスメント対応指針の作成 ④企画展報告、計画～平成25年度・26年度開催企画展の評価、平成27年度開催企画展の計画 ⑤「通常寄附金取扱要綱」の制定について ⑥平成27年度開催「ヨコハマ3万年の交流」について ⑦指定管理者選定評価委員会報告書対応について ⑧職員採用、昇任、転換について ⑨平成26年度予算外執行について ⑩港北ニュータウン発掘調査報告書作成について ⑪開港資料館収蔵庫について ⑫障害者雇用について ⑬関内地区3館の開館時間延長について ⑭事業報告書・決算書作成 ⑮平成27年度事業計画・予算書作成
2	理事会・評議員会 の開催	(1) 理事会の開催 年4回 議案検討・確定、招集、開催、議事録作成 (2) 評議員会の開催 年2回 議案検討・確定、招集、開催、議事録作成
3	財団人事・労務	(1) 職員の採用・退職事務 (2) 職員採用試験の実施 (3) 職員給与手当計算・支給 (4) 高年齢雇用継続給付 申請

		<ul style="list-style-type: none"> (5) 社会保険、所得税、住民税の控除・納付 (6) 臨時職員雇用保険加入・喪失 (7) 定期健康診断の実施 (8) 労災申請等 (9) 職員メンタルヘルスの支援
4	財務の管理	<ul style="list-style-type: none"> (1) 予算管理、全体調整 (2) 決算・中間決算 (3) 消費税・法人税 申告・納付 (4) 所得税法定調書の作成・提出 (5) 総務課事業の予算執行、現金管理 (6) 業者選定委員会の開催、入札 (7) 「寄附金等取扱要綱」の制定
5	研修計画の作成・実施	<ul style="list-style-type: none"> (1) 管理職研修の内容検討・実施 (2) 新採用職員研修実施 (3) 財団内部研修の実施 (4) 外部研修への参加調整
6	所管局への報告・調整	<ul style="list-style-type: none"> (1) 指定管理報告提出(月次、四半期、年度) (2) 事業報告・決算書に基づく市会報告 (3) 横浜市平成 27 年度予算編成にかかる調整
7	防災対策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 防災訓練の実施 (2) 地震津波警報機の設置
8	共同広報の実施、メルマガの配信	<ul style="list-style-type: none"> (1) 財団ホームページの管理・リニューアル 情報公開項目の更新等 (2) メルマガ「よこはま歴史かわら版」配信 月1回および臨時号
9	エデュケーター事業	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校による博物館利用の促進 <ul style="list-style-type: none"> ①財団各館での見学時の解説・ガイダンス ②小学校への「訪問授業(吉田新田・旧東海道等)」や「学校内資料室」での解説 ③市教育委員会・小学校社会科研究会・市PTA連絡協議会への案内 ④教員のための学習会、研修会の 準備・実施 ⑤企画展内容に関わる学校へ学芸員と出向いて周知、案内 (2) 教育委員会・各種研究会・学校との連携事業の企画・実施・調整 <ul style="list-style-type: none"> ① 学校・地域への出張研修及び訪問授業(横浜の歴史関連) ② 教育支援体験プログラム見本市の企画・実施・調整 ③ 区社会科研究会への協力「神奈川台場、民族資料・博物館活用、関内歴史ウォーク」研修会の企画、現地解説等 ④ 「博物館利用研究会」・「中学校教材開発研究会」による教材開発、資料活用研究、協議 ⑤財団主催教員研修「吉田新田学習会」の実施・運営

	<p>(3) 文化庁助成事業「博物館デビュー支援事業」計画・運営・研修会実施</p> <p>① 校内資料室視察および活用検討会を随時開催</p> <p>② 実行委員会開催(年間4回)</p> <p>③ 研修会「学校に歴史資料室をつくっちゃおう、フォーラム2014」開催</p> <p>(4) その他</p> <p>① 授業を伴う研究会への助言</p> <p>② 高校生・大学生の見学・研修への対応</p> <p>③ 資料活用・授業相談(訪問授業)の案内・準備・実施</p> <p>④ 教員の5年次、10年次研修への対応</p> <p>⑤ 横浜市立学校教員の横浜に関する歴史理解を促すため「横浜歴史マップ」を作成し全校に各3部配布</p>
--	--

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
本部事業	事業調整、諸会議の運営、人事労務事務等、適切に実施することができた。	B

(注) 評価について
 各事業について、平成26年度事業計画と比較した事業進捗・達成度合により、次の基準で自己評価を記載しています。
 評価基準については、平成21年6月の理事会・評議員会で決定されたものです。

S	<p>目標を大きく上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より大幅に進めた。</p> <p>定量評価：目標値120%以上達成</p>
A	<p>目標を上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より進めた。</p> <p>定量評価：目標値105%以上120%未満達成</p>
B	<p>目標通りの成果が上がった。予定通り進めた。</p> <p>定量評価：目標値95%以上105%未満達成</p>
C	<p>目標を下回る成果にとどまった。予定通り進めることができなかった。</p> <p>定量評価：目標値80%以上95%未満達成</p>
D	<p>目標を大きく下回る成果にとどまった。予定より大幅に遅れた。</p> <p>定量評価：目標値80%未満</p>

公益事業

I 埋蔵文化財センター事業

港北ニュータウン開発に伴う出土品・遺構測量図等の記録資料の整理を行い、成果を報告書としてまとめ刊行しました。保管資料の再整備や保管状況の改善をボランティアの協力を得て実施しました。

また、その成果を市民に還元するとともに、埋蔵文化財保護への関心を高めるため、広報紙の発行や歴史散策・体験学習・講座・展示等の開催のほか、図書館や地区センターなど他の公共施設と連携しての展示・講演会等の普及啓発活動も実施しました。とくに「**横浜の遺跡展**」関連講演会の参加者は、昨年度にも増して目標を大きく上回りました。

今年度より展示見学と体験学習を組み合わせた学校対応を試行し、周辺3校の受入を実施しました。

発掘調査事業は前年実施した発掘調査の整理報告業務2件、新規発掘調査1件を受託したほか、市教育委員会の実施した新市庁舎建設予定地の試掘調査に協力しました。

1 埋蔵文化財整備事業（定款第4条第1項第1号①）

港北ニュータウン開発に伴う出土品・遺構測量図等の記録資料の整理を行い、報告書としてまとめました。また、写真資料等のデジタル化や、ボランティアの協力を得た出土品再整備を進め、資料の保管状況を改善しました。

(1) 遺物整理・調査研究

項 目	事 業 内 容
<small>ごんたつばら</small> 権田原遺跡の整理報告 弥生時代後期～古墳時代 前期 （2／2年次）	出土品の実測・トレース、図面の作成、遺物写真の撮影、原稿執筆等を実施。
権田原遺跡の整理報告 旧石器時代～縄文時代 （2／3年次）	資料の接合、出土品の実測・トレース、拓本の作成、遺構トレース原図の作成等を実施。
権田原遺跡の整理報告 弥生時代中期 （1／3年次）	土器の実測、遺構図面のレイアウト作業等を実施。
港北ニュータウン内遺 跡の記録類検討・整理	神隠丸山遺跡の挿図作成、原稿執筆。

(2) 報告書刊行

項 目	事 業 内 容
権田原遺跡（IV） 古墳時代後期～平安時代	遺物整理・調査研究の成果を報告書として刊行した。 作成部数300部 ※権田原遺跡は4冊に分けて報告書を刊行する。

(3) 資料保存・整理

項 目	事 業 内 容
記録資料デジタル化	フィルム写真資料を高精細スキャンし画像データ化した。また、検索性データを作成し、資料保存と活用の利便性向上を図った。 デジタル化点数 1, 233カット/16日 (前年度: 2,262カット/20日)
出土品等保管再整備	宮沢遺跡、大口坂貝塚、新羽・大熊農専地区出土資料の再整理作業を実施した。(計70箱) これらの作業には、 整理ボランティア延べ38名の協力を得た。
図書等の受入れ・整備	受贈図書を受入れ、整理、保管、データのカード化などの整備を行い、市民の利用に供した。 受入れ点数: 調査報告書 926点 その他 247点 合 計 1,173点

2 普及啓発事業 (定款第4条第1項第1号②)

港北ニュータウン開発や公共事業等に伴う発掘調査の成果の市民への還元及び埋蔵文化財保護への市民の関心を高めるため、広報紙やホームページ等での情報発信及び歴史博物館や埋蔵文化財出土地域での展示・講演会などを開催しました。また、**栄区内の小学校を対象に、展示資料見学と体験学習をセットにした学校対応を試行し、周辺3校の受入を実施しました。**

(1) 広報

項 目	事 業 内 容
『埋文よこはま』の刊行	市内の埋蔵文化財情報を市民へわかりやすく発信した。 埋文よこはま30・31 (年2回) 各10,000部
インターネットによる情報公開	財団開設のホームページ上で、市内の埋蔵文化財情報や、Q&A、財団各施設の情報提供、刊行物の紹介等を行った。本年度は2回更新した。 アクセス件数 16,065件 (前年度12,158件)

(2) 講座・講演会等の開催

名称/開催期間	事 業 内 容
講座「横浜の考古学」 平成26年11月13日(木)・ 11月20日(木)(連続)	『横浜の重要遺跡』をテーマに、調査研究員が講師となり連続講座を実施した。本年度は2日間で全4講座を開催した。 第1回 「花見山遺跡」平山尚言 第2回 「神隠丸山遺跡」石井 寛 第3回 「観福寺北遺跡群」古屋紀之 第4回 「三殿台遺跡」鈴木重信 会 場: 歴史博物館 講堂 参加料: 1,000円 参加者: 93人 (目標: 100人)
「横浜の遺跡展」関連講演会 平成27年1月11日(日)	「横浜の遺跡展」関連事業として、講演会を実施した。 テーマ: 『ヤマタイ国時代の東日本—古墳出現期のかながわ—』

	<p>古屋紀之（埋蔵文化財センター） 西川修一（神奈川県立旭高校）</p> <p>会 場：歴史博物館 講堂 参加料：500円 参加者：197人（目標：150人）</p>
体験学習	<p>夏休みを中心に、土器文様の拓本とり、勾玉づくり、土器パズルづくりなど、参加者の興味を惹く体験学習教室を開催した。</p> <p>体験学習（4回開催） 参加者：21人（目標：50人）</p> <p>定期開催のほか、出前での開催を全5回実施した。</p> <p>5/17（土） 本郷地区センター祭り 参加者：150人 8/ 9（土） 睦コミュニティハウス 参加者：13人 8/21（木） 青葉台コミュニティハウス 参加者：19人 8/23（土） 栄区民文化センターリリス 参加者：60人 11/15（土） 境木小学校勾玉作り 参加者：97人</p> <p style="text-align: right;">参加者合計：339人</p>
地域歴史散策	<p>栄地域史研究会と連携して、地域の遺跡や由緒ある寺社を見学・散策した。</p> <p>5/31（土） 「宮ノ前横穴墓群と周辺の寺社を歩く」 参加者：24人（募集人数20人）</p> <p>11/29（土） 「旧桂公田村周辺の遺跡と寺社を歩く」 参加者：19人（募集人数20人）</p>
子どもアドベンチャー2014 平成26年8月19日（火）	<p>横浜市主催の「子どもアドベンチャー2014」に参加し、遺跡から出土した土器の水洗い体験を実施した。</p> <p>参加者：24人（募集人数40人）</p>
講師派遣	<p>9/17（水） 古屋紀之 会場：長津田地区センター 「長津田歴史展 PART 6」（主催：長津田地区センター） 参加者：60人</p> <p>10/19（日）・26（日） 古屋紀之 会場：大田区立郷土博物館 「方形周溝墓における葬送儀礼」（主催：大田区立郷土博物館） 参加者：92人</p> <p>12/ 8（月） 鹿島保宏 会場：かさまゆうわ館 「栄区周辺の遺跡について」（主催：栄地域史研究会） 参加者：20人</p> <p>※埋蔵文化財に関するもののみ。体験学習を伴うものは割愛。</p>
学校対応	<p>近隣小・中学校の見学・職業体験等を受け入れた。</p> <p>4/17（木） 庄戸小6年（75人） 展示見学・拓本取り体験 4/25（金） 桜井小6年（59人） 展示見学・土器洗い体験他 4/28（月） 公田小6年（53人） 展示見学・拓本取り体験 2/10（火） 上郷中2年（2人） 職業体験 2/19（木）・3/2（月） 上郷小3年（90人） 郷土資料室見学 小学校社会科担当教員の研修会を受け入れた。</p>

	8/18 (月) 栄区小学校社会科担当研修会 (14人) 展示見学・拓本取り体験
埋蔵文化財センター見学者対応	埋蔵文化財センターへ来館した市民に、センターを案内し資料について解説を行った。 見学者：536人 (前年度535人)

(3) 展示等の開催

企画展名/開催期間	事業内容
平成26年度 横浜の遺跡展 「古墳の出現－横浜の集落遺跡と前期古墳－」 平成26年12月6日(土)～ 平成27年1月12日(月・祝) 会期26日	本年度発掘調査報告書を刊行した権田原遺跡を中心に、市内の弥生時代後期～古墳時代前期の遺跡を取り上げた。関連事業として講演会・座談会を開催した。 同時開催：「平成26年度横浜市指定・登録文化財展」 会場：歴史博物館 企画展示室 観覧者：3,773人 (目標：3,700人) また、開催中フロアレクチャーを3回実施した。 12/20(土)・1/11(日) 参加者：計73人
図書館での展示	図書館で出土品及び写真パネルの展示を実施し、期間中関連講座を開催した。 栄図書館 11/1～11/30 講座参加者：24人

(4) 市民協働

項目	資料の内容
ボランティアの活用	体験学習の実施にあたって、ボランティアの協力を得て開催した。 活動延べ人数：71人



小学校対応



地域歴史散策



横浜の遺跡展

(5) 実物資料利用

項目	事業内容
発掘資料・写真資料の貸出展示等	遺物貸出：市内小学校で常設展示 12件
	コミュニティハウスで常設展示 1件
	郷土史団体等市民団体 1件
	横浜市ほか公共機関 2件
	写真貸出：横浜市ほか公共機関 1件
	写真掲載：博物館等の施設 2件

	出版社等	2件
	放送等	1件
	横浜市ほか公共機関等	12件

3 発掘調査事業（定款第4条第1項第1号①）

文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の発掘調査及び発掘調査の成果を整理し、報告書を刊行する業務を行いました。また、市教育委員会の実施した試掘調査に協力しました。

(1) 発掘調査

事業略名称	遺跡名	所在地	調査区分	委託者
上行寺裏遺跡（瀬戸21番地やぐら群）発掘調査	上行寺裏遺跡	横浜市金沢区	確認調査	横浜市都市整備局
※市教育委員会の試掘調査に協力		横浜市中区本町通6丁目	試掘調査	—

(2) 整理報告書作成

事業略名称	遺跡名	所在地	委託者	備考
本町小学校内遺跡整理報告	本町小学校内遺跡	横浜市中区花咲町	横浜市教育委員会	報告書を刊行
宮ノ前横穴墓群整理報告	宮ノ前横穴墓群	横浜市栄区鍛冶ヶ谷	横浜市環境創造局	報告書を刊行

4 施設連携事業（定款第4条第1項第1号②）

事業の共催や展示協力など財団他施設との連携を行ないました。

項目	事業内容
ふるさと横浜探検 「称名寺周辺の史跡を訪ねて」	横浜市歴史博物館と共催で、称名寺を中心に周辺の史跡や称名寺貝塚を見学した。 11/13（水） 参加者：21人
横浜市歴史博物館展示協力	企画展「大おにぎり展ー出土資料から見た穀物の歴史ー」（会期 10/11～11/24）の展示にあたり、出土品及び写真資料の貸し出し等協力を行った。
施設連携広報 「古代人ワールド」	夏季に開催される考古関連の体験学習について、歴史博物館・三殿台考古館と3施設共同のチラシを作成し配布した。（枚数：4,500枚）

5 埋蔵文化財センター施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

埋蔵文化財センターの施設維持管理及び運営を行ないました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
埋蔵文化財センター	施設の維持管理 おもな修繕等：老朽化により玄関外壁タイルが剥落したため、壁面の補修を実施した。

	研修室の利用 1 団体
--	----------------

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
埋蔵文化財整備事業	港北ニュータウン所在遺跡について、予定どおり整理報告作業をすすめ、報告書を刊行しました。記録資料デジタル化も着実に進めることができました。出土品等保管再整備は、ボランティアの協力を得て出土資料 70 箱の保管状況を改善しました。	B
普及啓発事業	「横浜の遺跡展」の観覧者数は目標を達し、講演会参加者も目標の 130% を越えるなど大変盛況でした。図書館と協力して、出土品・写真パネルの展示や講演会等を実施しました。今年度、小学校 6 年生を対象に、展示見学と体験学習をセットとした学校対応を試行し、3 校 187 人が来所しました。	S
発掘調査事業	前年度に発掘調査をした 2 件の整理報告事業のほか、新たに確認調査 1 件を受託し実施しました。そのほか、市教育委員会の試掘調査に協力しました。	A
施設連携事業	ふるさと横浜探検を歴史博物館と共催して実施しました。	B
施設維持事業	埋蔵文化財センターの施設維持管理を適切に実施しました。老朽化により剥落した玄関上部壁面のタイル修繕を実施しました。	B

II 市史資料室事業

財団では横浜市総務局法制課の委託を受け、総務局が所管する横浜市史資料室所蔵資料の公開・閲覧を行い、あわせて所蔵資料の保存・管理を行いました。また、昭和の横浜に関する資料の収集に努め、寄贈・移管資料の受入を引き続き行いました。所蔵資料の活用としては、年1回のパネル展示会とミニ展示を随時開催し、所蔵資料の紹介に努めました。

所蔵資料の調査研究では、開港資料館・都市発展記念館と共同の調査研究事業（地図データベース作成・戦後都市横浜に関する研究）を進めました。この研究成果は今後の横浜都市発展記念館などでの企画展示に活用します。また、都市発展記念館主催企画展「あこがれの『団地』」をはじめ、関連施設や市民利用施設における展示会等に協力して、写真・資料の貸し出しを通じて、所蔵資料の公開、普及に努めています。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

（1）資料の収集・管理・公開

項目	点数	事業内容
資料の寄贈	寄贈 47件 5,618点	主な収集資料：森田正純家資料・田中常義資料・白井文雄家資料、小林直明資料、白石緑家資料、横浜弁護士会資料、小澤恵一資料、岸幸示家ほかの寄贈を受け、整理・目録化を行った。
図書・刊行物	15,357点	図書（2,228冊）・行政刊行物（13,129冊）の収集・整理を行った。
資料の移管	5件 508点 1件 60箱	移管資料：中区史編纂関係資料、中区広報・広聴関係資料、戸塚駅西口再開發文書、環境保全局公害対策部より写真複製、文化観光局より横浜開港150周年協会関係文書（60箱）の移管を受け、整理・目録化を行った。
資料の購入	3件 114点	主な資料：神奈川県立高等女学校同窓会誌『真澄会誌』、「横浜市火災保険特殊地図 戦後」（112枚）他。
資料のマイクロ化等	マイクロフィルム 129,419コマ プリント 16,090枚 写真等複製 3,280枚	公開用の複製資料を作製するため、資料をマイクロフィルム撮影するとともに、一部の資料については、プリント製本を作製した。 主な資料：横浜市漁業協同組合柴支所資料、田村明資料、小山トレーディングカンパニー資料、鈴木敦子家資料、磯野庸幸関係資料、横浜弁護士会資料、小澤恵一資料、乳児保護協会資料など そのほか、写真資料の複写・スキャニングによるデータ化（2,937枚）、および旧公図のスキャニング・プリントによる複製作成を行った（343枚）。 （横浜市総務局法制課予算にて執行）

資料整理・保存		<p>収集資料の整理、目録の作成、及び一部資料について公開に向け、再整理を行った。また、中性紙封筒への封入及び再整理資料の中性紙封筒への入れ替えを行った。</p> <p>閲覧室に目録棚を設置し、公開資料の目録を準備の整ったものから順次配架した。</p> <p>資料を適切に管理し、資料台帳データの点検、更新および資料検索用目録の処理を行った。</p> <p>所蔵資料・新規受入資料の公開に向けて、資料整理、目録化、資料のマイクロ撮影、複製の作成を順次行い、写真資料のデータベース化を進めた。</p>
資料公開	入室者数 1,193 人	資料閲覧・複写・レファレンス対応等を行った。
資料貸出	貸出件数 206 件	出版物掲載（67 件）、放映等利用（34 件）、展示出陳（61 件）、その他授業で使用、HP 掲載など（44 件）のために写真、パネル及び資料の貸出を行った。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

（1）調査研究

項目	事業内容
資料調査	報告書刊行準備として、震災復興および大横浜形成について、その他東京オリンピック関係、戦後 70 年に向けて空襲および戦争関係の調査研究を行った。
展示会等の関連調査研究	展示会準備として、戦後復興期から高度経済成長期における市の広報活動および桜木町周辺の都市整備について、調査研究を行った。
共同調査研究	<p>開港資料館・都市発展記念館と共同で実施。市史資料室所蔵資料に含まれる地図の確認とデータベースへの登録作業を行った。</p> <p>都市発展記念館・開港資料館との連携研究事業に関し、定例会を開催し、高度経済成長期に関する所蔵資料の調査を行った。</p>

3 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

（1）閲覧室運営

項目	平成26年度	平成25年度	平成24年度
展示見学者（人）（注1）目標数 10,000 人	11,070	9,869	9,916
入室者数（人）目標数 1,200 人	1193	1119	955
資料閲覧室利用者数（人）（注2）	195	153	140
複写申込件数（件）	513	379	315
レファレンス件数（注3）目標数 150 件	326	224	164
電話レファレンス件数（注4）目標数 300 件	491	298	317

(注1) 市史資料室内展示コーナーの見学者数

(注2) 資料閲覧室は、一次資料専用の閲覧室であり、開架資料の閲覧室とは別室

(注3) レファレンス件数は、来室者からレファレンスを受け付けた件数

(注4) メールレファレンス含む

(2) 展示会・講演会・講座の開催

項目	事業内容
展示会の開催	展示会「横浜市広報ポスターにみる昭和40年代」 7月23日(水)～9月15日(月) 入場者数：4,010人
横浜市史資料室内 展示コーナー (ミニ展示)	展示ケースで、ミニ展示「B29搭乗員の資料から見た空襲」(4月1日～7月21日)、「横浜市広報ポスターにみる昭和40年代」関連展示、ミニ展示「大横浜の時代―震災復興から新たな都市へ―」(10月1日～12月27日)、ミニ展示「桜木町デパート」(2月5日～4月18日)を行った。
講演会・講座等	展示会関連上映会「ニュース映画にみる昭和40年代の横浜」を開催 8月2日(土) 参加者：99人 横浜中央図書館共催ライブラリーカフェ「横浜はフルーツ王国だった」を実施 2月21日(土) 参加者：43人

(3) 情報発信・普及広報

項目	事業内容
『市史通信』の刊行	情報誌として『市史通信』(No. 20～No. 22)を刊行(各5,000部)した。資料提供者(機関)、及び関係者(機関)へ発送するとともに、市民に配布した。また、同一内容のPDFファイルをホームページ上でも公開した。
『紀要』の刊行	所蔵資料の調査を中心とした、横浜の昭和史に関する研究成果を発表するため、『横浜市史資料室紀要』第5号(1,000部)を刊行した。 論文・資料紹介の他、今回は「回想の横浜」として小林直明氏のヒアリングを掲載した。
報告書『震災復興と大横浜の時代』	平成25年度の写真パネル展「レンズがとらえた震災復興 1923～1929」の内容とその後の調査結果をまとめ、報告書として刊行した(2,000部)。
その他促進事業	・図書館職員向け展示会「横浜市広報ポスターにみる昭和40年代」解説(8/6 32人、8/7 27人) ・都市発展記念館「五十嵐英壽写真展」展示出陳。 同「あこがれの「団地」展」展示出陳及び講師派遣 ・開港資料館「ガールズ・ビー・アンビシャス！」展示出陳 ・海外移住資料館「ララってなあに？」展示出陳。 ・「平和のための戦争展」講師派遣及び展示出陳。 ・市長公舎歴代市長肖像写真展示出陳。 ・南図書館「横浜。関東大震災の記憶」展示出陳及び講師派遣。 ・都筑図書館「昭和初期の体操」、鶴見図書館「占領軍のいた街」「1989年の横浜」展示出陳。

	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県立歴史博物館「陸に上がった海軍」展示出陳。 ・市職員向け研修会：市史資料室紹介と広報ポスター展解説および神奈川ニュース上映（9/12）。 ・シティー・ガイド協会研修会にてミニ展示「大横浜の時代」解説（12/17） ・図書館職員向けミニ展示「大横浜の時代」解説（12/25）。
ホームページの公開	<p>ホームページに、目録情報や所蔵資料概要を掲載し、刊行物の案内、展示会等の案内、『市史通信』の掲載など情報発信を行った。（横浜市総務局法制課で作成・随時更新）</p> <p>アクセス件数：8,108件</p>
広報宣伝活動	<ul style="list-style-type: none"> ・展示会「横浜市広報ポスターにみる昭和40年代」の案内チラシ・ポスターを作成・配布。 ・ミニ展示「B29搭乗員の資料から見た空襲」「大横浜の時代－震災復興から新たな都市へ」「桜木町デパート」のポスター・チラシを作成、掲示・配布。 ・財団メールマガジンによる情報発信。 ・レファレンス対応および取材対応。 <p>各ミニ展示、展示会「横浜市広報ポスターにみる昭和40年代」および戦後70年関係など（神奈川・産経・東京・朝日・読売各紙）。</p>
その他	<p>① 学芸員課程学生の施設見学・案内受入（9/17、桜美林大学7名）</p> <p>② 講師派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市立大学総合講義「横浜学事始」 ・平和のための戦争展 ・川崎市民ミュージアム ・国文学研究資料館 ・鶴見歴史の会講座 ・矢向地区センター ・南図書館 ・緑図書館 ・戸塚見地楽会 ・かながわコミュニティーカレッジ <p>③ 地域図書館展示協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南・都筑・鶴見各図書館 <p>④ 『神奈川新聞』「学芸員ネットワーク」掲載</p> <p>「ポスターに見る市政」（11/28）</p>

事業別評価

	実施概要	評価
市史資料室事業	横浜市の委託事業は順調に実施しました。	B

Ⅲ 史跡等管理事業

横浜市の歴史・文化財関連施設の維持管理・運営を行いました。

1 八聖殿郷土資料館事業（定款第4条第1項第1号②・③）

項目	事業内容
歴史講座の実施	<p>収蔵資料や地域の歴史を普及するための事業として、奇数月には連続講座「本牧・根岸発年次で探る地域の歴史」を、偶数月には特別講座として毎回異なるテーマによる講座を開催した。</p> <p>毎月第3土曜日 参加料：200円 参加者：計637人</p>
歴史散歩の実施	<p>上記連続講座の一環として、連続講座で話題にした地域へ赴く歴史散歩を実施した。</p> <p>5回開催 参加料：200円 参加者：計291人</p> <p>第1回：幻の笹下城周辺を歩く－肥沃な農村笹下（杉田）下郷を中心に－ 第2回：“海辺の街”野毛・戸部周辺を歩く－横浜道以前の道を中心に－</p>
地域との連携	<p>(1) 体験資料の貸出 NPO里山あそび（本牧山頂公園）が主催する稲の脱穀体験に使用する足踏み式脱穀機と唐箕を貸出した。</p> <p>(2) 中区絵本フェスティバルへの参加 中区絵本フェスティバル実行委員会から、同フェスティバルへの参加・協力依頼を受け、中区ゆかりの昔ばなしの塗り絵を3話作成し、提供した。なお、作成した塗り絵は、当館でも引き続き体験学習資料として展示室で活用し、好評を得ている。</p> <p>(3) 本牧和田地域ケアプラザ主催『本牧中学校と高齢者の地域交流会』で、地域の歴史を題材にしたクイズの出題と解説を担当した。 10/8（水） 参加者 57名</p> <p>(4) 三之谷町内会からの依頼で、同町内会茶話会で地域の歴史を題材にしたクイズの出題と解説を担当した。 10/9（木） 参加者 25名</p> <p>(5) 本牧大里町町内会主催『さんままつり』の会場で、写真パネル展と体験学習実施の依頼をうけ、次のことを実施した。 10/11（土）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々からご寄贈戴いた写真の展示 ・忌火体験（舞錐式火おこし体験） 70名程度 ・昔の遊び体験（竹馬、シャボン玉） <p>(6) お馬流し450周年記念事業への協力 本牧神社・お馬流し450周年記念プロジェクトからの依頼で、当館および当財団施設で所蔵・管理している図書資料や写真の提供を行った。</p> <p>(7) 町内会事業への協力</p>

	<p>町内会からの依頼を受け、『元気な本牧根岸まちづくりの会』主催事業のうち、本牧・根岸地域歴史地図の作成について、資料の提供や質問事項への回答を行っている。</p> <p>(8) 大鳥中学校コミュニティハウス主催歴史講座での講演 大鳥中学校コミュニティハウス主催の歴史講座での講師依頼を受け、次の講座を行った。</p> <p>横濱むかし物語</p> <p>2 / 15 (日) よこはま村のはなし 参加者 30人</p> <p>3 / 1 (日) ほんもく村のはなし 参加者 34人</p> <p>3 / 15 (日) 歴史をたどって歩いてみよう 大鳥中から八聖殿までの歴史散策 参加者 14人</p> <p>(9) 地域との連携事業協議 地区町内会やケアプラザ・地域NPO・小中学校・地域指定管理者など、本牧・根岸地区で活動する各団体と話し合う機会を設け、普及啓発活動や高齢者ケアの会への参加、地域の写真を集めたパネル展示の開催などについて検討している。</p>
学校との連携	<p>(1) 小学校対象 体験学習・出前授業 本牧地域にある小学校からの依頼を受け、当館での体験学習会や、学校への出前授業を実施した。</p> <p>① 間門小学校3年生 7 / 2 (水) 総合学習・地域調べ 41人</p> <p>② 本牧小学校6年生 7 / 9 (水) 郷土の施設調べ 16人</p> <p>③ 本牧小学校3年生 7 / 11 (金) お馬流しについて 72人</p> <p>④ 本牧南小学校5年生 学校で収穫した稲を千歯こき・足踏み式脱穀機を使った脱穀 11 / 11 (火)・12 (水) 65人</p> <p>⑤ 横浜国立大学附属小学校3年生 昔の生活・道具に触れてみよう体験 11 / 13 (木) 108人</p> <p>⑥ 北方小学校3年生 出前授業 洗濯板の使い方体験 11 / 27 (木) 117人</p> <p>⑦ 本牧小学校3年生 昔の生活・道具に触れてみよう体験 1 / 15 (木) 82人</p> <p>⑧ 本牧南小学校3年生 昔の生活・道具に触れてみよう体験 1 / 16 (金) ほか計6回 のべ507人</p> <p>⑨ 間門小学校3年生 昔の生活・道具に触れてみよう体験 2 / 23 (月) ほか計3回 109人</p>

	<p>(2) 中学校文化祭への参加 大鳥中学校PTAから『第11回大鳥中学校交遊祭』で、写真パネル展と体験学習実施の依頼をうけ、次のことを実施した。</p> <p>10/25(土)</p> <p>① 地域の方々からご寄贈戴いた写真の展示 ② 海苔作り道具の展示 ③ 忌火体験(舞錐式火おこし体験) 50人超 ④ ミニ草履作り体験 30人超 ⑤ どんぐり人形作り体験 400個超</p> <p>(3) 小中学校地域貢献活動への協力 地域小中学校が行う地域貢献活動について、大鳥中学校・本牧中学校・地域ボランティアグループからの依頼を受け、どのような活動が実施出来るのか、検討会に参加している。</p>
夏休み工作体験	<p>来館者のうち希望者に対して、ブログで紹介した草玩具や雑草コースター・ハエ取りトラップ作りや、わら草履作りの指導を行った。(随時)</p> <p>参加費：無料</p>
情報発信	<p>ホームページ及びブログ等により、八聖殿郷土資料館の展示・普及事業等の情報を発信している。</p> <p>ブログ更新35回 閲覧者数5,619人(平成27年2月から集計)</p> <p>地域町内会連合会・商店会・三溪園保勝会その他各種団体の協力を得て、地域回覧板や掲示板、三溪園および近隣の店舗に、当館ポスターの掲示、チラシの配布を継続している。</p>

八聖殿郷土資料館利用者の推移(目標数6,000人)

項目	平成26年度	平成25年度	平成24年度
八聖殿郷土資料館利用者数(人)	11,382	8,887	6,090

2 史跡管理事業(定款第4条第1項第1号③)

管理対象施設等	事業内容・所在地など
国指定史跡称名寺境内	史跡の維持管理 所在地：金沢区金沢町
県指定史跡稲荷前古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区大場町
県指定史跡市ヶ尾横穴古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区市ヶ尾町
上行寺東遺跡復元整備地	史跡の維持管理 所在地：金沢区六浦二丁目

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
史跡等管理事業	<p>八聖殿郷土資料館では、当初目標の約2倍の利用者数となり、14年ぶりに11,000人台を回復しました。地域の方々との交流も密となり、近隣学校や町内会、各種団体からの事業依頼や相談なども増加しています。</p> <p>史跡の維持については順調に管理を行いました。</p>	A

IV 歴史博物館事業

歴史博物館は、開港に至るまでの市域の歴史を「人々の生活」の視点から解明し、市民が「ふるさと横浜」の歴史と文化に親しみ、学ぶことに寄与するため、高い専門性に裏付けられた事業を進めるとともに、地域や学校との連携を一層深め、市民の期待や要望に即した幅広い活動を目指し、本年度も各種事業に積極的に取り組みました。

博物館事業の根幹となる資料の収集・保管・整理、修繕・燻蒸等は着実に実施しました。調査研究事業は7本を行い、その成果は講座、企画展の開催に活用しました。**特に市民協働で進めてきた民俗調査は、企画展「鶴見川流域のくらし」へと結実しました。**また、常設展示室では近現代のブースにおいて、作動しなくなった機器を撤去し、部分的な展示替えを実施しました。

企画普及事業では、展覧会を7回開催すると共に、学校団体による利用促進のための月曜日開館、夏休み子ども向けにも配慮した「蒔田の吉良氏」の展示、小学校への出前授業・出張土器焼き体験や、集客イベントとしての学芸員による常設展示解説、収蔵資料ミニ展示と解説などを実施しました。**「ナイトミュージアム」などの新しい取り組みもはじめました。**

市民協働では、地元の郷土史の会や地区センターとの連携、遺跡公園ガイドボランティアの活動とともに、活動支援ボランティアも着実に活動を積み重ねました。また、環境創造局のみどりアップ事業と連携したワークショップを実施し、都筑民家園と協働して歴史博物館・民家園・遺跡公園を利用した都筑遺跡公園民家園アート月間を開催しました。博物館の講座OB会の4団体がそれぞれの活動を行うと共に、博物館の支援、博物館との協働を目的に作られた「博物館もりあげ隊」が活動を展開しました。

施設の管理運営面では、経年劣化の機器類の恒常的な保守を行いました。

また、文化芸術振興費補助金「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」に応募した「学校内歴史資料室を活用した博物館デビュー支援事業」が今年度も引き続き採択され、当館を中核館として実行委員会を作り、小学校が所蔵する資料の調査・整理などを実施しました。

これらの事業を通して、施設の有効利用と認知度・来館者満足度が向上し、当初設定した目標もほぼ達成することができました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

展示・教育・普及・閲覧公開等の博物館活動に活用する資料を、購入・複製・マイクロ撮影等により収集し、分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、資料の修繕・燻蒸を行いました。

（1）資料の収集・管理

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈 725件 885点 寄託 0件 0点	主な収集資料：産湯たらい、ベビーベッド、念仏講道具、江戸～近代の版本・刊本、船鑑札・人面付壺形土器など
実物資料の購入	16件 73点	主な収集資料：東海道五十三次細見図会 程ヶ谷、今昔物語集、室町殿日記ほか
レプリカ製作	1件 1点	主な資料：早稲田大学図書館所蔵「武蔵国留守所代連署書状」

マイクロ撮影	2,000 コマ(製本 47 冊)	主な資料：金沢藩士萩原家文書・松澤家文書(製本のみ)
資料の修繕・保存	2 件 2 点	主な資料：赤羽刀の研磨、地神講掛軸の修復
資料の整理活用(収集資料のデータ入力)	2, 7 5 0 件	実物資料・図書文献資料のデータ入力を行った。
資料の整理活用(収集資料の貸出)	3 件 3 4 点	他の博物館・資料館での企画展・特別展に本館所蔵資料の貸出を行った。
図書資料の公開	3,886 件	図書閲覧室で、文献資料の公開及びレファレンスを行った。
写真資料の撮影・整理	撮影数 9 5 0 カット	常設展示や企画展・特別展に関する資料及び収蔵資料の撮影と整理を行った。
画像資料の貸出	貸出件数 64 件 128 点	他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳 (H26.4~H27.3)

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
絵 画 (点)	2 (2)	— (—)	7 (—)	— (—)	9 (2)	1, 9 5 3 (1, 9 4 4)
工芸品 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1 3 2 (1 3 2)
彫 刻 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	2 0 (2 0)
書 跡 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	5 1 (5 1)
典 籍 (点)	7 1 (1 8)	— (—)	4 9 3 (—)	— (—)	5 6 4 (1 8)	4, 6 4 7 (4, 0 8 3)
古文書 (点)	— (2)	1 (1)	1 1 7 (—)	— (—)	1 1 8 (3)	3 1, 3 0 0 (3 1, 1 8 2)
古記録 (点)	— (—)	— (—)	1 4 (—)	— (—)	1 4 (—)	5 3 (3 9)
絵 図 (点)	— (1)	— (—)	— (—)	— (—)	— (1)	1 6 9 (1 6 9)
歴史資料 (点)	— (—)	— (—)	2 3 9 (7 9)	— (—)	2 3 9 (7 9)	1 6, 8 6 2 (1 6, 6 2 3)
考古資料 (点)	— (—)	— (1)	1 (1 5, 4 9 5)	— (—)	1 (1 5, 4 9 6)	1 6, 8 7 6 (1 6, 8 7 5)
民俗資料 (点)	— (—)	— (—)	1 4 (3 4 9)	— (—)	1 4 (3 4 9)	9, 7 5 2 (9, 7 3 8)
図書文献資料 (点)	1 8 8 (2 6 4)	— (—)	2, 1 3 1 (2, 2 1 1)	— (—)	2, 3 1 9 (2, 4 7 5)	6 5, 0 5 6 (6 2, 7 3 7)
合 計	2 6 1 (2 8 7)	1 (2)	3, 0 1 6 (1 8, 1 3 6)	— (—)	3, 2 7 8 (1 8, 4 2 5)	1 4 6, 8 7 1 (1 4 3, 5 9 3)

※ () 内は、前年度点数。



寄贈資料 念仏講資料（左）
ベビーベッド（右）

(3) 図書閲覧室利用状況

項 目	平成26年	平成25年	平成24年
閲覧室利用者数(人)	6,082	7,471	6,394
複写申込件数(件)	478	504	560
複写枚数(枚)	4,307	4,812	5,020
レファレンス件数(件)	429	400	550

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
文化財害虫への対応	収蔵庫より出庫した資料は、燻蒸を行ってから収蔵庫に戻すという原則を徹底した。
保存燻蒸処理	燻蒸庫を使った二酸化炭素燻蒸のほか、資料に則した簡易燻蒸も合わせて行った。
環境検査	館の環境を把握するため、定期的に昆虫類モニタリング、菌類測定、塵埃測定、光学的測定を行った。

(5) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
歴史博物館収蔵庫 (1,901 m ²)	原始・古代から近現代までの考古資料・歴史資料・民俗資料。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

収集資料の整理や調査研究、企画展や講座・講演会の基礎的資料収集のための調査研究・資料整理を行いました。

(1) 基礎的調査研究1：収蔵資料に関する調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
後期旧石器時代・縄文時代草創期遺跡の調査研究	市域の後期旧石器時代・縄文時代草創期の遺跡及び出土資料を集成し、当時の活動の検討を行うことを目的に、本年度は横浜

(1/2年次)	市遺跡地図を中心に資料整理を行い、資料の現在の所在の確認を行った。
称名寺貝塚の研究 (1/2年次)	横浜市金沢区称名寺貝塚における縄文時代中期から後期にかけての漁撈活動の内容を明らかにすることを目的に、本年度は埋蔵文化財センター所蔵の確認・リスト化と共に貝塚出土の骨貝類の水洗いをを行った。
横浜の農兵に関する基礎研究 (1/2年次)	幕末に組織化された横浜市域の農兵隊とその動きについて考察することを目的に、本年度は先行研究の調査をふまえ、県立公文書館所蔵の関係資料の所在調査などを行った。

(2) 基礎的調査研究2：地域資料に関する調査研究

項目	目的・意図 及び 内容・成果
横浜市歴史博物館蔵「本朝世紀」 (写本)の研究 (1/2年次)	当館所蔵『本朝世紀』写本(21冊)の成立事情を明らかにすることを目的に、伏見宮家における当館所蔵本書写の経緯と「伏見宮記録文書」との関係について調査を行った。
所蔵資料「猪隈関白記」の研究 (1/2年次)	「猪隈関白記」4冊について、既刊行本との校合、未翻刻部分の翻刻および資料解釈を行うことを目的に、他施設所蔵の「猪隈関白記」と当館所蔵資料との比較・検討を行った。
横浜市域の産育習俗にかんする 民間信仰の調査研究 (2/3年)	近世以降の産育習俗に関わる民間信仰についての市域の広がりや変遷を明らかにすることを目的に、本年度は青葉区鉄町のおしゃもじ様に関する調査と基礎データの集積を行った。

(3) 市民協働の調査研究：フィールド調査を基礎として、市民とともに調査研究を行う

項目	目的・意図 及び 内容・成果
市民協働民俗調査 (1/2年次)	企画展「鶴見川流域のくらし」にあわせて刊行した調査報告書の補足調査ならびに原稿を執筆したほか、展示への協力をを行った。

(4) 企画展関係にともなう調査研究：企画展・特別展の開催に向けての調査研究

項目	目的・意図 及び 内容・成果
「ムラに生きる人々」に関する 調査研究	27年度以降に開催する予定の企画展の検討と、基礎的な資料の調査を行った。
「人と物の流れ」に関する 調査研究	27年度以降に開催する予定の企画展に関わる資料の調査、借用交渉などを行った。
「変わる横浜の形」に関する 調査研究	27年度以降に開催する予定の企画展の計画立案、基礎的な資料の確認調査を行った。

(5) 資料の調査整理

項目	目的・意図 及び 内容・成果
資料の整理	資料収集活動や調査研究で収集した資料・データなどの整理を行った。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室において、収蔵資料の公開や、学芸員による解説を実施することで、積極的な集客を図りました。また、展示資料・ジオラマ類・映像機器類の保守点検を実施しました。

同時に、近現代「変わる横浜のすがた」の内「おばあちゃんの時代」のコーナーでは、作動しなくなった6台の映像機器を撤去し、新規映像機器1台に関連写真数枚を流す方式に変更し、あわせて、展示ケース・グラフィック等も変更するなど、部分的な展示替えを実施しました。

(1) 常設展示室での実施事業

項目	目的・意図 及び 内容・成果
常設展示解説	毎月末土曜日に「ラストサタデープログラム」の一環として、学芸員による常設展示解説を行った。 参加者：225名（1日2回：全24回）
収蔵資料ミニ展示	7・8・9月と1・2・3月の6回、各時代の収蔵資料をスタディサロンで展示し、各最終日に解説を行った。 解説参加者：94人（1日2回：全12回）

(2) 常設展示室観覧者の推移（目標数79,500人）

	有料観覧者（人）				無料観覧者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	高大	小中	計					
26年度	9,655	1,116	8,500	19,271	47,921	67,192	92.8%	311日	216
25年度	10,925	1,066	10,502	22,493	49,848	72,341	105.7%	305日	237
24年度	10,710	1,064	10,663	22,437	46,020	68,457	92.4%	310日	221

4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示を補うテーマや、新たな調査研究の成果に基づく企画展示を開催しました。同時に、市民に横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるように各種の体験学習や歴史講座等を開催し、生涯学習活動を支援しました。

また、地域・学校や市民ボランティアと連携した事業や、施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。新たな取り組みとして「ナイトミュージアム」を実施し、また横浜市交通局はまりんフェスタに初めて参加し、いずれも好評を得ました。

(1) 企画展・特別展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	観覧者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「ハマの東海道」 H26.4.5（土） ～5.18（日） 会期42日	大人 300円 大高 200円 小中 100円	22,648人 （目標数 19,000人） 1日あたり 539人	市文化観光局の実施する「横浜旧東海道魅力づくり事業」の連携企画として、市域に神奈川・保土ヶ谷・戸塚の3宿が存在し、横浜にとって貴重な文化資源である東海道とその宿場の多様な魅力を、当館所蔵資料の浮世絵・屏風・絵巻・文書等を中心に紹介した。 関連事業 ①研究ミニ講座 4/5「江戸時代の東海道と神奈川県域」37人 4/6「神奈川区域の東海道と神奈川宿」37人

			<p>4/13「保土ヶ谷区域の東海道と保土ヶ谷宿」 51人</p> <p>4/19「鶴見区域の東海道」51人</p> <p>4/27「西区域の東海道と横浜道」41人</p> <p>5/11「戸塚区域の東海道と戸塚宿」53人</p> <p>②浮世絵解説講座</p> <p>4/5「江戸～箱根間」35人</p> <p>4/12「保土ヶ谷宿」36人</p> <p>5/10「戸塚宿」20人</p> <p>5/17「神奈川宿」27人</p> <p>5/18「神奈川駅中図会」33人</p> <p>③フロアレクチャー： 18日 11回開催 参加者154人</p> <p>④親子向けフロアレクチャー： 4回開催 参加者78人</p> <p>⑤よこはま三宿「電子かわらばん」(スライドショー) 上映会：「東海道風景街道」メンバーによる説明。 3回開催 参加者71人</p>
<p>特別展「佐久間象山 と横浜—海防、開港、 そして人間・象山—」 H26.5.31(土) ～7.6(日) 会期32日</p>	<p>大人 300円 大高 200円 小中 100円</p>	<p>9,366人 (目標数 11,000 人) 1日あたり 293人</p>	<p>佐久間象山没後150年を機会とし、当館で所蔵する象山関係資料を公開するとともに、関連資料を一堂に会する特別展を行った。</p> <p>関連事業</p> <p>①講演会 6/29「象山と海舟」 参加者173人</p> <p>②象山の書簡を読むミニ講座 6/16「横浜からの書簡」 44人 6/22「松代からの書簡」 42人 7/6「京都からの書簡」 68人</p> <p>③フロアレクチャー 6回 144人</p> <p>④ミニフロアレクチャー 3回 65人</p> <p>⑤開港記念日特別企画 親子向けフロアレクチャー 6/1 20人</p> <p>⑥ウォーキングツアー「開港場から神奈川台場まで 象山ゆかりの地を歩く」 6/13 28人</p> <p>⑦書道展 初の試みであったが、116名から応募があり、全員の作品を展示した。</p>

<p>企画展 「蒔田の吉良氏一戦 国まぼろしの蒔田城 と姫君一」 H26. 7. 19(土) ～8. 31(月・祝) 会期 44 日</p>	<p>大人 300 円 高大 200 円 小中 100 円</p>	<p>6,098 人 (目標数 5,500 人) 1 日あた り 139 人</p>	<p>本展覧会では吉良氏に関わる古文書や仏像などの貴重な資料を展示し、中でも吉良氏に嫁いだ小田原北条氏の姫君に関わる資料を詳しく紹介した。これらの資料により、蒔田の吉良氏をめぐる横浜の中世史跡とその歴史の一端を明らかにしていくことを目的とした。</p> <p>関連事業</p> <p>①講演会 8 / 23 「関東吉良氏とその世界」 176 人</p> <p>②研究講座 8 / 9 「武蔵吉良氏の造寺造仏」 51 人 8 / 16 「石井至毅と世田谷の古文書」 42 人 8 / 30 「吉良氏研究の最前線」 117 人</p> <p>③フロアレクチャー 6 回 89 人</p> <p>④学芸員と企画展を楽しもう(親子向け展示解説) 8 回 160 人</p> <p>⑤ミニウォーキングツアー 8 / 5 「世田谷城とその周辺をあるく」 28 人 8 / 26 「蒔田城とその周辺をあるく」 32 人</p> <p>⑥企画展スタンプブック(子供むけ小冊子)の作成 A6 版 8 頁 5,000 部</p> <p>⑦創作歴史紙芝居「蒔田城さき姫ものがたり」上演 吉良氏の居城・蒔田城の跡地に建つ横浜英和女学院の歴史部により 12 回の上演を行った。</p> <p>⑧横浜英和女学院中学高等学校美術部作品展 吉良氏の居城・蒔田城の跡地に建つ横浜英和女学院の美術部生徒による「縄文から戦国、そして現代までの歴史が重なる蒔田の丘」をテーマとした絵画 4 点を 2 階廊下に掲示した。</p>
<p>都筑区制 20 周年記念 展示 H26. 9. 13 (土) ～9 月 28 日 (日) 会期 15 日</p>	<p>無料</p>	<p>2,326 人 (目標数 2,500 人) 1 日あた り 155 人</p>	<p>都筑区内に事業所を置く京セラ株式会社から、め同社が所蔵する美術品から、「ふるさとの情景」や「都の隆盛」を感じさせる日本画や中国の乾隆ガラスを借用し、展示した。</p> <p>同時に、横浜市の「東アジア文化都市 2014 横浜」の事業の 1 つとして、中国泉州市・韓国光州市が所蔵する工芸品を展観した。</p>
<p>企画展 「大おにぎり展」 H26. 10. 11(土)</p>	<p>大人 300 円 高大 200 円</p>	<p>5,802 人 (目標数 6,000 人)</p>	<p>横浜市内から出土した古墳時代のおにぎり状の炭化物を手がかりにして、おにぎりの歴史を解き明かすとともに、最新の植物考古学の研究成果を紹介した。</p> <p>関連行事</p>

<p>～11.24(祝) 会期 39 日</p>	<p>小中 100 円</p>	<p>1 日あたり 149 人</p>	<p>① フロアレクチャー 14 回 201 人 ② 「実験！古代のご飯を食べよう」 弥生時代と古墳時代の復元土器による調理実験と 食べ比べを行った。 2 回 589 人 ③ 講演会 11/3 「おにぎりの考古学」 79 人 ④ ワークショップ「古墳時代のお弁当箱を作ろう」 2 回 28 人 ⑤ ワークショップ「土器の圧痕レプリカ体験」 32 人 ⑥ 「土器を食べちゃえ！」 230 人に土器型クッキー の試食体験をしてもらった。 ⑦ 「横浜市のおにぎり関連遺跡を歩く」 10/22、11/5 計 21 人 ⑧ (株)臨港コミュニティの主催によるバスツアー「登 呂遺跡でおにぎりを食べる旅」 30 人</p>
<p>企画展「平成 26 年度 横浜市指定・登録文 化財展」 H26.12.6(土) ～H27.1.12(月・祝) 会期 26 日</p>	<p>無料</p>	<p>3,773 人 (目標数 3,500 人) 1 日あたり 145 人</p>	<p>横浜市が平成 26 年度に指定及び登録した文化財を 中心に市指定文化財を紹介した。同時に、埋蔵文化財 センターの「横浜の遺跡展—古墳の出現・横浜の集落 遺跡と前期古墳」開催。 関連行事 ① 講演会「ヤマタイ国時代の東日本—古墳出現期のか ながわ」 197 人 ② フロアレクチャー 2 日 3 回 73 人</p>
<p>企画展 「鶴見川流域のくら し—生業・水運・信 仰・祭礼—」 H27.1.31(土)～ 3.15(日) 会期 38 日</p>	<p>大人 300 円 高大 200 円 小中 100 円</p>	<p>10,684 人 (目標数 10,000 人) 1 日あたり 281 人</p>	<p>2009 年に組織した「民俗に親しむ会」のフィールドワ ークの成果を取り入れ、鶴見川流域のくらしの諸相を 紹介した。 関連行事 ・写真展「鶴見川流域狛犬百態」 ・講演会「鶴見川流域のくらしと洪水の現代・未来 史」 94 人 ・鶴見川流域フィールドワーク 2/4, 2/11, 2/25, 3/4, 3/11 合計 42 人 ・親子や家族で楽しむフィールドワーク 3/14 5 人 ・市場神代郷神楽公演 2/1 390 名 ・ギャラリートーク 2/8, 2/22, 3/8, 3/15 148 人</p>

(2) 企画展示室観覧者の推移 (目標数 56,000 人)

	有料観覧者 (人)				無料観覧者 (人)	合計 (人)	前年比	開催 日数	1日平均 入館者(人)
	大人	高大	小中	計					
26年度	7,529	693	6,776	14,998	45,703	60.701	107.2%	236日	257
25年度	7,385	587	2,848	10,820	45,783	56,603	97.6%	239日	236
24年度	8,496	594	5,758	14,848	43,099	57,947	107.4%	239日	242

(3) 歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
古文書解読教室 初めての古文書 H26.10.3(金) ～12.5(金) 毎金曜 10回連続	各回 43人 (目標数 40人) 合計 430人	初心者を対象に江戸時代の古文書を教材として解読の初歩を学ぶ講座を行った。 講師：斉藤司、小林紀子 会場：歴史博物館 研修室 参加料：5,000円
中世史講座 H26.12.7(日)	合計 13人	「市内の指定文化財」をテーマとし、「上原家文書を読む」というタイトルで実施した。 講師：阿諏訪青美 会場：歴史博物館 研修室 参加料：500円
民俗学講座 H26.12.21(日)	合計 12人	「市内の指定文化財」をテーマとし、「廻り地蔵の習俗」というタイトルで実施した。 講師：羽毛田智幸 会場：歴史博物館 研修室 参加料：500円
近世史講座 H27.1.14(水) ～1.28(水) 毎水曜 3回連続	各回 42人 (目標数 40人) 合計 126人	「資料から見る幕末横浜の村々」をテーマに3週連続で実施した。 講師：小林紀子 会場：歴史博物館 研修室 参加料：1,500円
古代史講座 H27.1.14(水) ～1.28(水) 毎水曜 3回連続	各回 32人 (目標数 40人) 合計 96人	「古代の村の仏堂」、「古代国家と八幡神」、「木簡から探る7世紀における倭王権の地域編成」をテーマに3回連続で実施した。 講師：平野卓治、柳沼千枝 会場：歴史博物館 講堂 参加料：1,500円
実験考古学講座 「縄文土器づくり」 H27.2.7(土) ～3.21(土) 全4回	初回 20人 2～4回 19人 (目標数 20人) 合計 77人	横浜縄文土器づくりの会の指導で、港北ニュータウン出土の縄文土器をモデルに土器づくりの体験教室を行った。 会場：歴史博物館 工房・野外広場 参加料：4,000円

開館 20 周年記念 特別講演会 H27. 1. 31(土)	201人 (目標数 150人)	開館 20 周年を記念して五味理事長と鈴木館長によるリレー講演会を行った。 講師：五味文彦・鈴木靖民 会場：歴史博物館 講堂
講師派遣		地域の研究団体、歴史研究サークル等が主催する講座・講演会へ学芸員を派遣した。延べ 25 回。

(4) 体験学習の実施

会場/開催日	参加者数	参加料	事業内容
体験学習室 毎日開催	55,925 人 (目標数 60,000 人)	無料	さまざまな道具に直接触れ、歴史を実感できる内容で実施した。 常時開催：銅鐸鳴らし、駕籠、火打石、鎧と兜等 ミニ展示 ・小学生見学対応プログラム 4/4(金)～7/10(木) ・ちょっと昔を探してみようー不思議なかたちの道具たち 7/11(金)～9/18(木) ・ミニおにぎり展 9/19(金)～11/27(木) ・ちょっと昔を探してみよう 11/28(金)～4/2(木)
体験コーナー H26. 4 月 ～H26. 6 月	7,956 人	無料	小学校団体が多い 4～6 月にかけて、エントランスホールで火起こし疑似体験できるコーナーを設置し、ミニ体験を実施した。
工房 8/1 を除き午前午後の 1 日 2 回開催 (年度通算 20 日 39 回)	859 人	300 円	小学生の親子を中心に、楽しみながら歴史に触れる教室を開催した。 4/20(日)：小さな弥生土器 55 人 6/7(土)・8(日)：小田原ちょうちん 79 人 7/27(日)・30(水)：横浜の土偶 113 人 8/1(金)・2(土)：万祝染 54 人 8/6(水)：繭細工 25 人 8/10(日)・13(水)：縄文ポシエット 95 人 8/21(木)・22(金)：勾玉づくり 118 人 10/11(土)・12(日)：縄文顔 39 人 11/22(土)：ぞうり編み 49 人 12/13(土)・14(日)：和凧作り 55 人 2/14(土)・15(日)：紙すき 111 人 2/22(日)：小さな縄文土器 66 人
ナイトミュージアム	25 人	大人 1000 円	大人や家族連れを対象に、夜間の博物館の展示室と遺跡公園の見学会を実施した

		高大 700 円小中 400 円	9/13 (土)
大人の体験学習	10 人 (目標数 10 人)	1,200 円	6/28 (土) : あじろ編みでバッグを作ろう
あじろ編み ワークショップ	96 人	350 円	1/31 (土)・2/1 (日)
竪穴住居に泊まろう H26. 7. 19(土) ～7. 20(日)	8 家族 25 人 (目標数 8 家 族)	大人 1500 円、 子供 700 円	小学生とその親を対象に遺跡の竪穴住居に宿泊 する体験教室。火起こし・竪穴住居での食事・ 夜の遺跡見学・宿泊体験を実施した。
勾玉ワークショップ H26. 11. 20 (水)	5 人	500 円	横浜市聾支援学校の生徒を対象に、勾玉作りの ワークショップを開催した。
出張ワークショップ H26. 10. 19 (日)	59 人	500 円	都筑地区センターの事業に共催し、勾玉作りの ワークショップを同センターで実施した。
体験広場野焼き	1,230 人 (目標数 800 人)	無料	工房で作った土偶等の野焼きを横浜縄文土器づ くりの会と協働で行い、市民に公開した。 5/5 (日祝)、8/23 (土)、11/2 (日)、3/21 (土)
横浜市交通局はまり んフェスタ「どきドキ 体験」出展	土器で炊いた玄 米試食:1041 人 土器の重さ当て クイズ 448 人 合計 1489 人	無料	10/4 (土) に横浜市交通局新羽車両基地で行な われた「はまりんフェスタ」に協力し、土器で 炊いた玄米の試食と土器の重さ当てクイズを実 施した。

(5) 「夏休み博物館たんけん隊」の実施

会場	開催日	参加者数	事業内容
常設展示室 企画展示室 博物館バックヤード	H26. 8. 3、 10、17、 24 (日) 1 日 2 回	160 人 (目標数 160 人)	博物館を楽しみながら関心を高めてもらうために、 親子や児童生徒を中心に開催した。 内容：企画展の展示ポイント解説、常設展示室の照 度測定体験、赤外線テレビカメラでの調査体験、博 物館バックヤード見学など。

(6) 「ふるさと横浜探検」の実施 (目標数 30～35 人/回)

探訪地	開催日	参加者数	事業内容
みなとみらいから黄 金町へ 横浜ゆかり の作家長谷川伸をた どる	H26. 5. 14 (水)	10 人	みなとみらい駅から黄金町駅までの散策を半澤正時 氏の案内で散策した。 参加料：700 円
田んぼと里山の自然 観察フィールドワー ク	H26. 9. 23 (火祝)	17 人	中山駅から新治市民の森までを北川淑子氏の案内で 自然観察をしながら散策した。 参加料：700 円

称名寺周辺の史跡を訪ねて	H26. 10. 22 (水)	7人	当財団埋蔵文化財センターとの共催で、称名寺境内とその周辺の史跡を訪ねた。 講師：鹿島保宏（埋文センター） 参加料：700円
バスツアー沼津市周辺の中世城郭を訪ねて	H27. 3. 18 (水)	39人	臨港コミュニティ主催・当館共催で、当館企画による沼津市周辺の中世城郭をテーマとしたバスツアーを実施した 参考：参加費 5000円

(7) 集客イベント等

項目	開催日	参加者数	事業内容
子どもの日スペシャル 大塚遺跡まつり	H26. 5. 5	1,297人	大塚・歳勝土遺跡公園内で、火起こし体験（参加者：359人）、弓矢で狩り体験（参加者：280人）、古代米一口体験（参加者：263人）、土器の野焼き（見学者：395人）を行った。
都筑阪急 モザイクモール観覧車 無料招待	H26. 7. 27（土） ～ 8. 25（日）	493件	都筑阪急とタイアップ。入館券の半券でモザイクモール観覧車に無料招待
チボリ兄弟舎紙芝居	H26. 8. 16（土） ・ 17（日）	212人	街頭文化祭と題し、夏季集客事業の一環として、紙芝居の普及を目的に実施した。
都筑遺跡公園民家園 アート月間	H26. 10. 11 (木) ～ 12. 6 (土)	8,092人	・「キッズ弓矢体験・遺跡ライブ」（公園） 11/2（月・祝） 参加者506人 ・写真展「丘の手中学生が見たみなとヨコハマ」（エントランスホール） 10/11（土）～26（日） 見学者4,158人
博物館感謝デー	H27. 1. 31 (土)～ 2. 1(日)	6,004人	常設展示室・企画展示室の無料開放。常設展示・特別展解説、新成人による時代衣装の装着、紙芝居、あじろ編み、土器復元パズル、鏡パズル、ショップフェアを実施した。
ラストサタデープログラム	全12回	火起こし体験 116人	常設展示解説のほか、4,5,6月には正面玄関にて火起こし体験を実施した。
おもしろいぞ！紙芝居	毎月最終 土曜日 (全12回)	938人	ラストサタデープログラムの一環として、当館所蔵の街頭紙芝居を活用し、実演を行った。
「子どもアドベンチャー2014」への参加	H26. 8. 20(水) (2回)	50人	市教育委員会主催の子ども向け夏休み企画「子」に参加。絵巻物や考古資料の取り扱いを体験し、バックヤードの見学も行った。

(8) エントランスホールコンサートの実施

当館の認知度を高め、新規来館者の開拓を図るため、エントランスホールを会場としてコンサートを開催しました。

事業名/開催日	事業実績等
第26回コンサート 「神奈川フィルハーモニー管弦楽団 夏のコンサート」 H26. 6. 8(日)	演奏者：神奈川フィルハーモニー管弦楽団 フルート／大見幸司、オーボエ／古山真里江、クラリネット／森川修一、ファゴット／石井淳、 来場者数：133人
第27回コンサート 「ヴィオラとアイリッシュハープが奏でる名曲の午後」 H26. 12. 14(日)	演奏者：アイリッシュハープ／小堀真理、ヴィオラ／堀江冬子 来場者数：137人

(9) ボランティアの活動支援

項目	事業内容
ガイドボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・市民ボランティアにより、小中学校団体、及び一般来館者へ大塚・歳勝土遺跡公園、旧長沢家住宅の無料解説ガイドを行った。また、当事業は、ガイド研修を通じて登録者の考古学・歴史学に関する自己学習・生涯学習の支援を兼ねている。 ① ガイド登録者数：76人 ②登録期間 2年間（但し、希望者は2年間延長更新可） ③基本ガイド時間 小学校団体 45分間 一般 60分間
事業支援ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ・学校団体来館時の対応や、ラストサタデープログラムなどの事業を支援してもらうことを目的とした、活動支援ボランティアを実施した。 ① 登録者数：57人 ② 活動実績 4～6月学校団体対応火起こし疑似体験活動 ラストサタデープログラム体験イベント、貝塚遺物洗浄 勾玉教室、区民まつり、センター北まつり、感謝デー、 都市発展記念館・ユーラシア文化館企画展ワークショップおよびイベント 活動のべ人数 1,329人
ガイドボランティア研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・館外研修会・研修講座等を開催した。

ガイドボランティア活動実績

項目		平成26年度	平成25年度	平成24年度
活動	ガイド実施日数(日)	309	305	310
	解説回数(回)	1,160	1,189	1,311
	1日平均解説回数(回)	3.65	3.90	4.11

実績	参加者数(人)	24,433	27,516	26,980
	団体対応(件)	292	286	298
	団体のうち学校数(校)	250	262	272

(10) 学校連携事業の実施

学校利用を促進するために、エドューケーターを中心に「学校の博物館利用研究会」及び「教材開発研究会」を運営し、展示資料案内の作成、また、「吉田新田」「出張土器づくり」についての小学校への出前授業と、近隣4区の小学校向けに常設展示室で吉田新田の説明を行いました。また、教職員を対象とした、吉田新田の学習会を行い、各区社会科研究会研修会の運営に参加協力しました。

事業名／開催日	事業内容等
学校の博物館利用研究会 ・年3回の会合をもち、博物館所有資料の学習への効果的な活用について話し合う。また、研究会を通して学校間の情報を密にする。	・横浜市小学校社会科研究会所属の教員5人及びエドューケーターで構成。 ・26年度は、文化庁助成博物館デビュー支援事業の実行委員会や小学校資料室訪問等に参加していただき、3年昔調べ、6年歴史、他教科の学習等に歴史資料をどのように生かせるか、について話し合った。27年に継続、成果をまとめる予定となっている。
教材開発研究会 ・年3回の会合をもち、博物館所有資料の効果的な活用を図る指導事案を作成する。	・横浜市立中学校教員4人、元中学校校長・西部授業支援センター指導員1人、及びエドューケーターで構成。 ・中学校社会科歴史学習について、博物館所有の資料を活用した指導事案を作成、検討、ホームページへの掲載。
教職員研修 H26. 8. 19(火)午前と午後の部	市教育委員会が主催する教職員研修を受け入れて実施した。 参加人数：午後22人
10年次研修 H26. 7月1名、8月1名各2日間	市内職員の5年次、10年次研修を受け入れて実施した。 参加人数：2人(高校)
月曜開館	学校団体の来館が多い4・5月の月曜日に臨時開館し(4日間)、混雑緩和と積極的な学校団体誘致を図った。
吉田新田訪問授業 11校 1240人	10/ 8(水) 茅ヶ崎小学校 4クラス 126人 10/22(水) 日野小学校 2クラス 51人 10/29(水) 鴨居小学校 3クラス 86人 10/30(水) 子安小学校 4クラス 141人 11/11(火) 平沼小学校 3クラス 94人 11/12(水) 菊名小学校 3クラス 120人 11/14(金) 藤の木小学校 3クラス 100人 11/19(水) 綱島東小学校 3クラス 112人 11/26(水) 川和東小学校 3クラス 106人 11/28(金) 今井小学校 2クラス 69人 12/ 2(火) 川和東小学校 2クラス 71人 12/ 9(火) 師岡小学校 3クラス 100人 12/10(水) 師岡小学校 2クラス 64人

学校資料室への訪問授業 6校 608人	1/ 5 (月)浜小学校はまっ子 25人 1/ 6 (火)六浦小学校職員 32人 1/ 13 (火)港北小学校 3年 110人 1/ 20 (火)川和東小学校3年 143人 1/ 22 (木)山下小学校 3年 78人 2/ 10、17 (火)森の台小学校3年 220人
常設展示室 吉田新田説明 6校 578人	10/17 (金) 荏子田小学校 2クラス 73人 10/21 (火) 三育小学校 1クラス 20人 10/31 (金) 勝田小学校 3クラス 121人 11/18 (火) 牛久保小学校 4クラス 136人 11/20 (木) すみれが丘小学校 2クラス 68人 12/12(金) 中川小学校 5クラス 160人
その他出前授業 縄文土器づくり 出前授業 2校 130人	横浜縄文土器づくりの会との協働で、市内の公立小学校へ出張して、土器づくりの指導を行った。 7/ 9 (水)・8/29 (金)・10/1 (水) 下末吉小学校 児童24人 6/20 (金)・7/16 (水)・8/23 (土) 神橋小学校 児童106人
教職員対象の吉田新田の学習会	授業での学習ポイントを説明 8/1 (金) 24人 5(火)9人 22(金)39人 計72人
横浜市・各区研究会及び 関係団体への研修事業 震災、東海道等の訪問授業	南区社会科研究会 5/14 (水) 24人 港南区社会科研究会 5/14 (水) 29人 港北区新吉田第二小 6/4(水) 420人 学校コーディネーター教育支援見本市 6/28 (土)約200人 小田中コミュニティハウス 7/4 (金) 20人 4区社会科研究会 8/18 (月) 89人 鶴見区社会科研究会 8/18 19人 各学校授業研究会 5校 135人 震災、東海道等訪問授業 5校 6年 443人



縄文土器作り出前事業の様子

(11) 市民諸団体との協働事業

当館では市民と共に歩む博物館を目指して、博物館に集う市民諸団体と博物館のあり方を検討しつつ、協働事業を実施しました。当館主催の講座OB会である「横浜古文書を読む会」、「横浜縄文土器

作りの会」、「横浜古代史料を読む会」、ガイドボランティアのOB会である「横浜さいかちの会」の4団体は、博物館と連携して定期的な活動を行っています。定期的な活動以外には、臨時講座の開催や出張授業や講座への協力なども実施しています。また、博物館の支援、博物館との協働を目的に「横浜歴博もりあげ隊」が結成され、活動しています。

項 目	事 業 内 容
「横浜古文書を読む会」との協働	毎月2回の講座の開催と、有志による「下読みの会」の実施。
「横浜縄文土器作りの会」との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・出張土器づくり教室（下末吉小・神橋小）を実施した。 ・実験考古学講座「縄文土器づくり」（H27.2.7～3.21 全4回）を実施した。 ・横浜縄文土器づくりの会作品展（H27.1.24～2.1）を開催した。 ・私たちがつくった縄文土器展（H27.3.22～29）を開催した。
「横浜さいかちの会」との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季の史料購読講座の開催。 ・「日本書紀」を読む講座の開催。
「横浜歴博もりあげ隊」との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・連続古代史講座（4回）の実施。 ・博物館感謝デーにおける常設展示室クイズラリー、中国編みワークショップの実施。 ・「博物館デビュー支援事業」の学校アンケートの整理の実施。

(12) 学校団体利用の推移（目標数 500 校）

項 目	平成26年度	平成25年度	平成24年度
学 校 数 (校)	394	425	431

うち小・中学校利用数

項 目	平成26年度	平成25年度	平成24年度
学校数 (校)	376	408	409
児童・生徒数 (人)	35,000	38,623	39,248

(13) 実習・研修の受け入れ

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習などの受け入れ	<p>博物館学芸員資格の取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。</p> <p>(Aコース：分散型) 希望者なし</p> <p>(Bコース：夏季集中型) 12名 8日間（7～8月）</p> <p>博物館学の専門実習の受け入れを行った。</p> <p>10/7（火）～11/28（金）</p> <p>國學院大学大学院生 1人</p>
社会研修の受け入れ	<p>生徒・学生・社会人の職場体験・研修等を受け入れた。（延人数）</p> <p>5/16（水） 市立中川西中学校 4人</p> <p>6/25・26（木・金） 市立松本中学校 8人</p> <p>7/29～8/1（火～金） 県立高校インターン 12人</p> <p>9/17・18（水・木） 市立川和中学校 8人</p> <p>11/26～28（水～金） 市立東山田中学校 12人</p>

	1 / 14・15 (水・木)	市立中山中学校	8人
	1 / 16 (金)	市立茅ヶ崎中学校	2人
	1 / 22・23 (木・金)	市立荏田南中学校	8人
	1 / 28・29 (水・木)	市立鴨居中学校	8人
	2 / 11 (水) ~ (土)	フェリス女学院大学	1人

(14) 広報出版

項 目	事 業 内 容
リーフレット類作成	歴史博物館案内パンフレット 歴史博物館案内児童用パンフレット 歴史博物館催し物案内 (年2回) 通史展示解説シート
出版物発行	横浜市歴史博物館ニュース (2回) 各13,000部作成 横浜市歴史博物館資料目録 第23集 700部作成 横浜市歴史博物館紀要 第19号 800部作成 横浜市歴史博物館調査研究報告 第11号 800部作成
その他広報	市営地下鉄6駅構内の広報案内看板による広報 市営地下鉄の車内放送による広報 インターネットによる広報 一般新聞・雑誌等への広告掲載による広報 都筑区民まつりへの出店参加による広報 市営地下鉄車内吊り広告による広報 FM放送への情報提供 グランドミュージアム北部エリア会議参加 ソーシャルメディアネットワークによる情報発信

5 情報事業 (定款第4条第1項第1号②)

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
収蔵資料等データ入力及びインターネット公開	収蔵資料、図書文献資料等のデータ入力及びインターネット公開を行った。 ・データ入力件数 合計2,750件 ・インターネット公開 収蔵資料情報の公開 合計50件 (前年度50件) 図書文献資料情報の公開 合計2,671件 (前年度2,936件)
映像資料の公開	スタディサロンで映像ビデオを公開した。
文化財情報システムの運用・保守	インターネット等による文化財情報の管理・発信やグループウェアに関わる機器類の保守を行った。

ホームページを利用した博物館情報の発信と市民ニーズの把握	博物館のホームページ上で、博物館の催し物案内をはじめ、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料・市内文化財等の紹介を行った。 アクセス件数 合計441,628件（前年度378,529件）
ツイッターを利用した博物館の情報発信	ツイッターを利用した博物館の展覧会、体験学習、講座・講演会などの様々な情報を発信した。

6 歴史博物館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

歴史博物館及び野外施設の維持管理・運営を行いました。

（1）歴史博物館等の維持管理

管理対象施設等	事業内容
歴史博物館	施設の維持管理、補修・修繕、燻蒸庫燻蒸・収蔵庫燻蒸の実施 スタディサロン・歴史劇場の運営、講堂、研修室の貸出 主な修繕：泡消火設備改修、講堂音響システム
歴史博物館野外施設	国指定史跡「大塚・歳勝土遺跡公園」の管理

（2）講堂・研修室利用の推移

項 目		平成26年度	平成25年度	平成24年度
講 堂	利用者数（人）	18,727	17,960	23,023
	利用件数（件）	148	185	171
	うち有料貸出件数（件）	30	41	38
研修室	利用者数（人）	7,642	6,894	7,300
	利用件数（件）	262	254	242
	うち有料貸出件数（件）	127	137	149

（3）歴史博物館野外施設入場者の推移

項 目		平成26年度	平成25年度	平成24年度
歴史博物館野外施設（人）		54,259	53,886	56,428
内 訳	大塚遺跡（人）	49,194	49,311	50,435
	工 房（人）	5,065	4,575	5,993

7 学校内歴史資料室を活用した博物館デビュー支援事業

公開承認施設である当館を中核館として、「博物館デビュー支援事業実行委員会」を組織し、文化庁からの補助金を受け、（1）学校文化財の所在および授業活用状況調査事業、（2）博物館体験促進・人材育成事業の大きく2つの事業を実施した。

項 目	事 業 内 容
学校文化財の所在および授業活用状況調査事業	1. 学校内歴史資料室の活用に向けた事業の実施 （1）学校内歴史資料室の資料整理および展示改善 ① 博物館を中核に調査団を組織し、資料の整理・目録化。 ・青葉区鉄小学校所蔵資料の整理（455点）

- ・都筑区中川小学校所蔵資料の整理 (277 点)
- ・金沢区釜利谷小学校所蔵資料の整理 (378 点)
- ・泉区和泉小学校所蔵資料の整理 (303 点)
- ・鶴見区矢向小学校所蔵資料の整理 (230 点)
- ・戸塚区上矢部小学校所蔵資料の整理 (整理継続)

② 整理・環境改善が終了した小学校の展示改善

- ・青葉区鉄小学校郷土資料館
- ・都筑区中川小学郷土資料館
- ・金沢区釜利谷小学校釜利谷郷土館
- ・泉区和泉小学校郷土資料館
- ・鶴見区矢向小学校矢向ミュージアム・矢向生活道具館
(改善継続中)
- ・都筑区川和小学校ふれあい郷土館 (改善継続中)
- ・緑区中山小学校郷土資料展示室 (改善継続中)

(2) 学校内歴史資料室の資料所在についての情報発信

① 資料所在目録の作成 6校分 2,134 点の資料目録作成。

② ウェブサイトからの情報発信

中核館である歴史博物館のウェブサイトリニューアルに合わせて公開。

2. 学校内歴史資料室の活用状況の把握に向けた事業

(1) 学校内歴史資料室に関する事例収集

① 市内全小学校に対し、3年社会科「昔のくらしをたずねてみよう」に関するアンケートの実施

- ・326校より回答：結果は年報に掲載

② 先進事例の現地調査

- ・学校内歴史資料室の訪問：10区10校を訪問
- ・視察検討会の開催

緑区中山小学校郷土資料室の視察・検討

6/24日(火)・7/3日(木)

泉区和泉小学校郷土資料室の視察・検討

9/25日(木)

鶴見区矢向小学校矢向ミュージアム・矢向生活道具館の

視察・検討 11/17日(木)

(2) 学校内歴史資料室にかかわる情報の発信

① ウェブサイトからの情報発信

学校内歴史資料室を活用した授業案の公開

② 教育フォーラムの開催

- ・「歴史資料室ミニ・フォーラム」の開催

10/23日(木) 参加者：33人

- ・公開研修会 第2回「学校に歴史資料室をつくっちゃおう！」

	<p>フォーラム in 歴博」を開催 1/10日(土) 参加者:97人</p>
博物館体験促進・人材育成事業	<p>1. 博物館体験の促進と博物館マナーの向上に資する事業</p> <p>(1) 博物館体験の促進に関する事業</p> <p>① 複製紙芝居の製作と上演活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的上演活動(原則として毎月末の土曜日に、1日3回上演) 全12回 参加者:938人 ・臨時上演の実施 チボリ兄弟舎紙芝居 8/16(土)・17(日)実施 参加者:202人 ・街頭紙芝居の複製製作活動 139巻を制作 <p>② 学校貸出キットの製作とサンプル展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・港北区港北小学校 ・港北区高田東小学校へ貸出 <p>③ 博物館体験促進にむけた学校連携展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展「佐久間象山と横浜」に合わせた書道展 応募者116人 ・企画展「蒔田の吉良氏」に合わせたスタンプラリーと 児童へのスタンプブックの提供 頒布部数:5000部 <p>(2) 博物館利用マナーの向上に資する事業の実施</p> <p>①博物館デビュー・マナーブックの作成・配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度作成したマナーブックを6月より団体見学を訪れる小学生に配布 <p>②バックヤードツアーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休み博物館たんけん隊の実施 計8回 参加者160人
年報の作成	<p>上記の2つの事業の実施概要、アンケート結果、整理した資料の目録、製作紙芝居の目録等を所載した「年報」を作成。</p>

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	<p>資料購入・寄贈による資料収集を行うとともに、複製資料の制作やマイクロフィルム制作などによる収集活動を着実にを行いました。収蔵庫からの資料の出庫・入庫方式の策定、燻蒸方式の策定を行い、実施に移しました。収集資料の整理・保管・データ入力、資料の修繕を進めました。また、画像資料の有料貸出も継続しました。</p>	B
調査研究事業	<p>収蔵資料に関する調査研究を2本、また地域資</p>	B

	料に関する調査研究を3本実施し、その成果は報告書として刊行・公開しました。市民協働による民俗調査研究もその成果を展覧会・報告書として公開しました。	
常設展事業	<p>来館者に気持ち良く観覧してもらうため、定期のメンテナンスや部品交換、修繕、清掃等を計画通り実施し維持管理に努めました。また、修繕不可能となった部分に関しては、部分的な展示替えを実施しました。</p> <p>学芸員による展示解説、収蔵資料ミニ展示及び解説等は定着しています。ただ入場者数は、目標の85%で目標には達しませんでした。</p>	C
企画普及事業	<p>当初計画した様々な事業は予定通り実施しました。企画展・特別展はいずれも好評で、入場者は6万人を超え、目標の108%という成果となりました。</p> <p>市民協働においては、活動支援ボランティアが定着し、講座OB団体の活動の他に「横浜歴博もりあげ隊」が活動を展開しました。学校連携としては、吉田新田の出前授業・常設展示室吉田新田コーナーの解説・教職員向けの研修など着実に実施しました。</p>	A
情報事業	館内の端末での情報提供とインターネットでの収蔵資料情報の公開等、情報発信を計画に基づき実施しました。インターネットへのアクセス数は、昨年比117%と増加しました。	A
施設維持事業	経年劣化が進んでいる博物館施設、遺跡公園の施設等の維持管理を適切に実施しました。駐車場の泡消火器の消化液の交換も実施できました。	B
博物館デビュー支援事業	文化庁の補助金を得て、今年度も昨年度に引き続き、実施しました。調査チームを編成しての市内小学校所蔵資料の整理・調査、授業とモノ資料との関係に関するアンケート、先進的な取り組みを行っている小学校の歴史資料室の視察・検討会の開催、一般公開のフォーラムの開催、などを行いました。また、紙芝居の定期的な実演、複製製作も実施し、博物館体験促進に向けた取り組みも行いました。当初の計画通りに事業を実施することができ、事業効果も大きかったとみられます。	A

V 開港資料館事業

平成26年度は区役所・企業・学校・外部の研究者との連携事業を多く実施し、今後、こうした連携が継続されるような信頼関係を構築しました。中区役所とは都市発展記念館と共同で広報よこはま中区版での連載をおこないました。また、スイス系企業のDKSH社や横浜市内の学校とは企画展示を共催しました。さらに、外部の研究団体と共同で研究した成果を民間の出版社から刊行しました。一方、近現代歴史資料課が運営する開港資料館・都市発展記念館・市史資料室の3施設では、合同の研究や資料整理をおこない、この成果を来年度以降の企画展示などに活用することになりました。資料の保存については設置者にシルクセンターに倉庫を確保していただき、資料を移管しました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料を収集し、収集資料を良好な状態で保存するために資料の保管・修繕を行いました。また、閲覧室での資料公開・コピーサービスにより、資料や研究成果の普及を行いました。

（1）資料の収集・管理・公開（H26.4～H27.3）

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈 19件 4150点 寄託 1件 521点	主な収集資料：戸田家旧蔵チェンバレン関係資料、栗原清一旧蔵資料ほか
資料の購入	46件 188点	主な収集資料：プロイセン海軍船員日記ほか
古文書のマイクロ化	21件	主な複製（マイクロ撮影）資料：高橋更一家文書
資料の保存処理・修繕	500件	中性紙封筒への入れ替え
資料の分類・整理	古文書など 約5000点	収集した歴史資料を保存・公開するため、資料群ごとに分類・整理した。
閲覧室における資料の公開とコピーサービス	閲覧室利用 2,796人 コピー枚数 35,518枚	邦字・欧字新聞複製、図書等の開架資料の公開と、文献・古文書等の閉架資料の出納・公開、コピーサービスを行った。
写真資料・画像資料の撮影	撮影件数（21件）古写真や古記録など	企画展や閲覧公開に供する資料及び収蔵資料の撮影を行った。
複製フィルム等の提供	提供件数613件 2,322点	市民や企業、他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の提供を行った。
実物資料の貸出	貸出件数10件	他の博物館（静岡県立美術館・品川区立品川歴史館ほか）へ実物資料の貸出を行った。

（2）資料収集内訳（H26.4～H27.3）

区分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
行政資料（点）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1,851 (1,851)
政府資料（点）	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	16,137 (16,137)

海外資料（点）	2 (-)	5 (2)	- (15)	- (-)	7 (17)	14,051 (14,044)
文書・記録（点）	1 (-)	9 (8)	2,688 (777)	- (1,025)	2,698 (1,810)	82,682 (79,984)
新聞資料（点）	- (1)	- (-)	12 (-)	- (-)	12 (1)	9,946 (9,934)
横浜絵・写真等（点）	17 (39)	2 (4)	514 (41)	521 (29)	1,054 (113)	33,523 (32,469)
コレクション（点）	- (-)	- (-)	836 (34)	- (-)	836 (34)	51,103 (50,267)
文献資料（点）	168 (312)	5 (6)	100 (10)	- (45)	273 (373)	57,248 (56,975)
合 計	188 (352)	21 (20)	4,150 (877)	521 (1,099)	4,880 (2,348)	266,541 (261,661)

※（ ）内は、前年度点数。

(3) 複製フィルム等の提供実績

項 目	平成26年度	平成25年度	平成24年度
出版社（一般書・教科書・雑誌）、放送・テレビ会社、官公庁、横浜市及び横浜市関連機関への提供	613件	521件	592件

(4) 閲覧・資料相談・複写サービス利用状況

項 目	平成26年度	平成25年度	平成24年度
閲覧室利用者数（人）	2,796	2,279	2,682
複写申込件数（件）	1,456	1,240	1,450
複写枚数（枚）	35,518	32,433	31,921
レファレンス件数（件）	2,726	2,008	2,869

(5) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
中性紙資料保存封筒作成	劣化する酸性紙保存封筒からの中性紙保存封筒への入れ替え
環境検査	5回/年 実施

(6) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
開港資料館収蔵庫（310 m ² ）	文書記録、画像資料、個人文庫、文献等の収蔵と管理を行った。
大黒埠頭倉庫、シルクセンター他	マイクロフィルム、器物資料、文献資料等の収蔵と管理を行った。

2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料について調査研究を館外の研究者とも協力して行いました。また、昨年に引き続き、開港資料館・都市発展記念館・市史資料室の3施設合同で、「戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業」を行い、関係資料の収集、研究文献の掌握などを実施しました。さらに、3つの施設が所蔵する地図資料の統一的なデータベース化にも取り組みました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
開国・開港期の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ①長野県上田市などに所在する生糸貿易関係資料調査 ②ブレンワルド日記の翻訳作業 ③企画展「スイス使節団が見た幕末の日本」企画・実施 ④「開港のひろば」執筆
横浜近代欧米関係史	<ul style="list-style-type: none"> ①企画展「近代日本学のパイオニア―チェンバレンとアーネスト・サトウ」企画・実施 ②横浜カントリー&アスレティッククラブ (YC&AC) 所蔵資料の分析、論文作成 ③アーネスト・サトウ関係追加寄贈予定資料の整理 ④チェンレバレン関係資料の整理、調査・収集 ⑤横浜外国人社会研究委託実施 ⑥地図データベース会議開催・課題検討 ⑦ブレンワルド研究会参加 ⑧記念ホールのパネル展「戦後 70 年プレ展示 アメリカ人女性下士官が撮した占領下の横浜―ルジェリー・コレクションから」／特別資料コーナー展「アーネスト・サトウの次男 武田久吉と山」準備・開催、および関連出版物の原稿執筆 ⑨『横浜と外国人社会―激動の 20 世紀を生きた人々』の編集・刊行
横浜近代文化史	<ul style="list-style-type: none"> ①今井文庫戦災関係図書・洋書整理 ②Y 高所蔵資料整理 ③特別資料コーナー「ペリー来港 160 周年 絵巻に見るペリー艦隊」開催 ④旧館ホール展示「ワールド・カップ開催記念 横浜とサッカー」展開催 ⑤栗原精一旧蔵資料の資料整理と寄贈受け入れ ⑥郷土史協研修会 (33～36 回) 開催、ニュース (33～36 号) 発行 ⑦子どもアドベンチャー 2014 担当 ⑧展示関連資料調査 (横浜共立学園・横浜雙葉学園・フェリス女学院・捜真学院・横浜英和学院・幼きイエス会・横浜市中央図書館など) ⑨第 4 回企画展示「ガールズ ビー アンビシャス！」展担当 ⑩「開港のひろば」124・127 号執筆 ⑪ブレンワルド研究会参加 ⑫明治学院大学図書館所蔵 横浜ユナイテッド・クラブ蔵書調査 ⑬横浜海岸教会所蔵資料整理 ⑭横浜英和学院所蔵資料整理 ⑮中区広報 (No. 187・189) 執筆
横浜近代アジア関係史	<ul style="list-style-type: none"> ① 相模原市松尾家周ピアノ調査、寄贈受け入れ ② 開港記念日周ピアノコンサート開催 ③ 横浜市立大学「横浜華僑の歴史」講義

	<ul style="list-style-type: none"> ④ 横浜山手中華学校、マリントワーなど各種講座担当 ⑤学芸員実習担当 ⑥横浜関帝廟 150 周年記念誌事業参加 ⑦特別資料コーナー展示「明治大正の料理本」担当中区歴史の散歩道執筆 ⑧『開港のひろば』第 126 号「明治大正の料理本」および 127 号「山下町の旧インド人商館」執筆 ⑨『横浜開港資料館紀要』第 33 号論文「1877 年の横浜外国人居留地における中国人」執筆 ⑩「中区歴史の散歩道」執筆 ⑪八聖殿郷土資料館講座担当 ⑫華僑史分野の委託研究会担当 ⑬地図データベース会議参加 ⑭ブレンワルド研究会参加 ⑮各種絵葉書、古写真等資料受け入れ
横浜近代社会経済史	<ul style="list-style-type: none"> ①館蔵諸文書の追加整理、既収集・未公開文書の整理公開 ②「蚕展」の実施、講座・講演会の実施 ③記念ホール展「おしえてヒストリー 群馬-生糸-ヨコハマ」の実施 ④特別資料コーナー「もう一つのシルク産業-富士瓦斯紡績保土ヶ谷工場」 「横浜のお菓子屋さん」実施 ⑤ 中山浜次郎文書の整理、清水和友家文書・写真の収集・整理 ⑥ 次年度展示「横浜と音楽」準備 ⑦紀要編集、および論文「横浜の絹糸紡績業」執筆 ⑧学芸員実習担当 ⑨横浜近代史研究会委託担当 ⑩首都圏形成史研究会事務局補助 ⑪横浜郷土史研究協議会講座「横浜の生糸貿易と日本の製糸業」講師 ⑫泉区役所「横浜の生糸貿易と泉区域の製糸業」講師
歴史情報の集積と研究	<ul style="list-style-type: none"> ①中区広報「元町の洋菓子店」(7月号)執筆 ②新収新聞及び雑誌の整理と公開 ③『開港ひろば』125号「横浜に里帰りした平山花火」執筆 ④常設展示室1階の一部と2階特別資料コーナーで、「横浜に里帰りした平山花火」展を開催 ⑤横浜国際婦人会資料調査及び借用 ⑥川上規矩関係資料調査(市原市) ⑦学芸員実習担当 ⑧『開港ひろば』126号「ジョセフ・ヒコと『海外新聞』」執筆 ⑨特別資料コーナー「ジョセフ・ヒコと『海外新聞』」展を開催 ⑩寄贈資料の整理・受入(樋泉明氏) ⑪寄贈資料の整理・受入(山内英司氏) ⑫寄贈資料の整理・受入(児玉伯生氏)

横浜近代政治史	<ul style="list-style-type: none"> ①都市発展記念館及び市史資料室との連携事業の実施 ②郷土史協研修会（33～36回）開催、ニュース（33～36号）発行 ③横浜私立大学等のインターンシップの受け入れ担当 ④国文学研究資料館アーカイブカレッジ受け入れ担当 ⑤学芸員実習担当 ⑥『開港のひろば』執筆（125・127号） ⑦『横浜開港資料館紀要』第33号「人力車の普及と法規制—明治期の横浜市域を対象として—」執筆 ⑧「中区歴史の散歩道」執筆 ⑨特別資料コーナー展「関東大震災と東海道線」準備・開催 ⑩特別資料コーナー展「描かれた名峰・富士山」準備・開催 ⑪新潟大学災害・復興科学研究所講演「関東大震災90周年の成果と課題—横浜市の博物館及び文書館の視点から—」 ⑫横浜近代史研究会委託担当 ⑬首都圏形成史研究会事務局担当 ⑭新収蔵資料の整理と公開（須藤家資料・高橋家資料等） ⑮「ハマを駆ける」展準備
---------	--

（2）調査研究の委託

項 目	委託先	目的・意図 及び 内容・成果
幕末・明治初年の横浜 関係資料の総合研究 (1/2年次)	横浜史料調査研究会 (代表：井川克彦)	幕末から明治初年の横浜での貿易に関する史料と横浜に関する古記録を調査することを目的に業務を委託した。具体的には横浜を代表する外国商社シイベル・ブレンワルド社の創始者カスパー・ブレンワルドの日記を翻訳し、これに関する研究を実施した。また、長野県上田市を中心に生糸貿易関係史料の調査や横浜英和学院所蔵資料の調査をおこない、開港資料館の展示や講座などの事業で成果を公表した。
横浜市政及び周辺郡部の調査研究及び横浜の貿易・経済史の調査研究（1/2年次）	横浜近代史研究会 (代表：大豆生田稔)	地域研究では、将来的な活用を見越しつつ、大正期の『飯田助夫日記』のデータ化作業を行ったほか、横浜関係の人物データの構築については、『横浜蒙求』（1913年）及び『財界物故傑物伝 上・下』（1937年）より抽出した121件の情報を過去に作成した人名録データベースに加えた。地域資料の調査と整理では、横浜と関係の深い吉澤武彦家の文書整理を行ったほか、新たに警察関係の史料を開拓し、その整理作業に着手した。加えて、横浜港に関する調査研究については、基本文献の確認作業とともに、現在の研究状況を会員間で共有するなど、次年度以降の活動の基礎を固めた。

大正・昭和期の横浜欧米外国人社会の総合研究（1/1年次）	横浜外国人社会研究会（代表：本宮一男 横浜市立大学教授）	横浜在住欧米系外国人社会の資料調査・総合研究を目的とした研究を委託し、報告書が提出され、予定どおり業務が完了した。さらに報告書をもとに当館と共同で論文集を編集し、民間出版社より出版した
横浜華僑風俗史の調査研究（1/2年次）	横浜華僑史研究会（代表：曾士才法政大学教授）	横浜在住中国人の墓地および葬儀風俗に関する調査研究を行った。具体的には中華義荘（中国人墓地）の墓石と墓誌調査を行い、データベース化を進めるとともに、関係文書や写真を調査し、複製で収集した。また、華僑および墓石・葬祭業者への聞き取り調査を行った。

（3）研究紀要の発行

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事業内容
横浜開港資料館 紀要 第33号	1,250部	1,620円	当館専門職員等による資料の調査研究、整理等の成果をまとめた。 ・渡邊修次郎と横浜 ・一八七七年の横浜外国人居留地における中国人 ・横浜の絹糸紡績業 ・人力車の普及と法規制

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室において、資料・展示ケースなどの保守点検を実施し、円滑な展示室運営を行いました。

（1）常設展示室観覧者の推移（目標数 61,000人）

	有料入館者（人）				無料入館者 （人）	合計 （人）	前年比	開館 日数	1日平均 入館者（人）
	一般	小中	閲覧室	計					
26年度	23,227	5,096	1,288	29,611	16,006	45,617	107.4%	291日	156
25年度	21,477	4,508	1,077	27,062	15,412	42,474	78.1%	229日	185
24年度	27,941	7,084	1,141	36,166	18,238	54,404	95.8%	303日	180

（2）新収蔵資料や新発見資料を紹介する「特別資料コーナー」の設置

常設展示室の一角や旧館1階ホールを活用して、新収蔵資料や新発見資料の紹介コーナーを設けたり、ミニパネル展示をおこなったりして、調査研究の成果をいち早く紹介した。

項目	内容・成果
資料紹介	ホール展 4/1～5/6 「戦後70年プレ展示 アメリカ女性下士官が撮った占領下の横浜—メアリー・ルジェーリ・コレクション—」 第55回 5/9～5/30 「もう一つの生糸産業—富士瓦斯紡績保土ヶ谷工場—」 第56回 6/1～6/29 「ペリー横浜上陸160周年 絵巻に描かれたペリー艦隊」 ホール展 6/8～7/13 「サッカー・ワールドカップ関連 横浜とサッカー」 ホール展 7/26～8/31 「富岡製糸場と絹産業遺産群」世界文化遺産登録記念

	<p style="text-align: center;">「おしえて！ ヒストリー 群馬ー生糸ーヨコハマ」</p> <p>第 57 回 8/2～8/29 「横浜に里帰りした平山花火」</p> <p>第 58 回 8/30～9/30 「関東大震災と東海道線」</p> <p>第 59 回 10/4～10/26 「ジョセフ・ヒコと『海外新聞』」</p> <p>第 60 回 11/1～11/30 「明治、大正の洋食レシピ本」</p> <p>第 61 回 12/6～2015 年 1/12 「企画展「近代日本学のパイオニア」関連ミニ 展示 アーネスト・サトウの次男 武田久吉と山」</p> <p>第 62 回 2/7～3/1 「描かれた名峰・富士山」</p> <p>第 63 回 3/3～3/29 「横濱のお菓子屋さん-明治のたのし味 百菓繚乱-</p>
・開港（開館）記念日 に関する事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムショップセールを実施し、グッズ販売を促進した ・記念室を一般開放し、李ピアノを公開した

（3）旧館ホール・中庭展示

- ・一昨年度から来館者の動向調査を兼ねて、無料展示スペースである旧館ホール・中庭展示の見学者数の集計を始めた。

旧館ホール見学者：51,667 人

中庭展示見学者：75,819 人（目標数 100,000 人）

- ・都発と連携し、横浜シティガイド協会主催の「ちょこっとツアー」（開港資料館の閲覧室外部の下水管や旧館および都発の第一玄関を見学するツアー）を受け入れた。

4 企画普及事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号②）

江戸時代後期から明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料の研究成果を企画展開催や紀要等で発表しました。また、横浜郷土史団体連絡協議会を中心に市民との協働を積極的に進め、研修会の実施や出版物の作成指導等を行いました。

（1）企画展の実施

企画展名/開催期間	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展示 「“蚕の化せし金貨なり… — 明治大正の生糸産地と横浜」 H26. 4. 19(土)～7. 13(日) 会期 74 日	13,602 人 （目標数 16,000 人） 1 日あたり 183 人	日本の近代製糸業の発展を支えた横浜の役割と、横浜の生糸市場へ自らの生糸を売ろうとする生産者側の多様な活動を明らかにし、量産と高品質化を実現した日本製糸業のイノベーションを、三井製糸関係資料（下諏訪）、二本松製糸会社資料（福島）、佐野製糸場関係資料（宮城）、伊藤製糸場関係資料（四日市）など、これまでほとんど知られていなかった資料により語った。当館所蔵の生糸商標、養蚕関係資料、片倉製糸関係資料などの活用の道が広がり、深みのある展示となった。
企画展示 通商条約締結 150 周年記念「スイ ス使節団が見た幕末の日本—カス パー・ブレンワルド日記を中心に」	11,614 人 （目標数 20,000 人）	平成 26 年(2014)は、日本がスイスと通商条約を結んで150周年にあたった。これを記念して、慶応元年(1865)に日本に進出したスイス系商社シイベル・ブレンワルド商会の業務を継承した DKSHジャパン株

<p>H26. 7. 16(水)～10. 19(日) 会期 83 日</p>	<p>1日あたり 140 人</p>	<p>式会社と共催で、スイス使節団の一員として来日したカスパー・ブレンワルドが記した日記を題材に通商条約締結の歴史を振り返った。</p>
<p>企画展示 「近代日本学のパイオニア―チェンバレンとアーネスト・サトウ」 H26. 10. 22(金)～H27. 1. 12(日) 会期 66 日 *年度途中で放送設備等工事の実施が決まったため、開幕日が 27 年 1 月 12 日に変更され、開催日数も 66 日間に短縮された</p>	<p>9,398 人 (目標数 14,000 人) 1日あたり 142 人</p>	<p>開港後に来日した外国人のなかに、自分たちのそれとは大きく異なる日本の歴史や文化に興味を持ち、研究を始める人びとが現れた。このジャパノロジスト(日本研究者)と呼ばれる人たちの中からさらに、日本の古典を原書で読み、本格的な研究成果をあげる優れた人びとが誕生した。アーネスト・サトウと、B・H・チェンバレン、W・G・アストンは明治期の 3 大ジャパノロジストと称される。本展示は、当館が所蔵する国内随一のサトウとチェンバレンのコレクションにより、ふたりのジャパノロジストとしての活躍を、日本での暮らしぶりや、周囲の人びととの交流を通して紹介した。</p>
<p>企画展示 「ガールズ・ビー・アンビシャス！ 横浜山手のミッション・スクール」 H27. 1. 28(水)～4. 19(日) 年度中会期 54 日</p>	<p>8,767 人 (期間合計目標数 11,000 人) 1日あたり 162 人 (期間実績数 12,422 人)</p>	<p>明治初頭から半ばにかけて、アメリカのプロテスタント伝道団やフランスのカトリック修道会が横浜に派遣した女性宣教師、シスターたちが横浜の山手に創設した 5 つの女子ミッション・スクールを取り上げた。政府の欧化政策の時代から国家主義の台頭によるキリスト教教育の抑圧、関東大震災、戦災など、時代の変遷のなかで、女子ミッション・スクールが今日まで歴史を刻んできた道のりを、各校が所蔵する資料をもとにたどり、ミッション・スクールが横浜の女子教育に果たした役割を考えた。</p>

「ガールズ・ビー・アンビシャス！」展 出陳資料

左：「少女出世双六」『少女世界』付録 1908 年

下：山手 34 番地の捜真女学校（絵葉書）



講座名称/開催日	参加者数	事業内容
第1回企画展示関連事業	講演会 69名/講座 55名	5/17 (土)、会場:横浜開港資料館講堂 講演会「日本製糸業の技術革新－富岡製糸場を中心に」鈴木淳東京大学教授 5/31 (土)、会場:横浜開港資料館講堂 講座「映像に見る日本のシルク産業 1 -富岡製糸場とその後継者」平野正裕主任調査研究員 6/13 (土)、会場:横浜開港資料館講堂 講座「映像に見る日本のシルク産業 2 -生糸産地の担い手たち」平野正裕主任調査研究員
第4回企画展示関連事業 資料講読講座 「英文資料にみる横浜のミッション・スクール」	49人	講師:小玉敏子氏(捜真学院前理事長) 2月28日(土) 午後2時より3時半まで 3月7日(土) 午後2時より3時半まで 3月14日(土) 午後2時より3時半まで
第4回企画展示関連事業 横浜散策 「山手の丘に横浜女子教育の源流を訪ねて」	154人	山手に残されたミッション・スクールゆかりの地散策 2/22・3/11・3/22 9時30分～12時30分 主催/横浜開港資料館 共催/横浜シティガイド協会 展示解説(会期中6回 2回×3日)+ウォーキング

(3) 各種出版物の作成・編集

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事業内容
第1回企画展示「蚕の化せし金貨なり」図録	1500部	834円+税	総頁数40頁。横浜開港資料館編
「横浜と外国人社会－激動の20世紀を生きた人々」	1000部	4,500円	総頁数302頁。横浜開港資料館・横浜外国人社会研究会編、日本経済評論社刊

(4) 市民との協働事業の実施

横浜の郷土史に関心の深い市民団体相互の交流促進及び開港資料館と各団体との協働事業を推進することを目的に、平成18年度末に設立した横浜郷土史団体連絡協議会との共催事業として、会報の作成や、講座等を行いました。(平成24年度末現在、加盟52団体 賛助会員1団体)

項目	事業内容等
横浜郷土史団体連絡協議会との共催事業	① 総会・研修会・公開講演会の実施 大会 4/26(土) 研修会 第33回 6/10(火) 第34回 9/5(金) 第35回 12/3(水) 第36回 3/10(火)

	<p>全4回 参加者 計101名</p> <p>公開講演会 11/29(土) 参加者 33名</p> <p>② 横浜郷土史連絡協議会 News の発行 33号～36号</p> <p>③ 特別講座「戦史資料を学ぶ 防衛省防衛研究所見学」を実施 参加者 21名</p> <p>④ 会報9号を刊行</p>
--	---



横浜郷土史団体連絡協議会大会



横浜郷土史団体連絡協議会研修会

(5) 新聞社各社への記事連載への協力

項 目	事 業 内 容 等
神奈川新聞連載「学芸員ネットワーク、かながわの地域博物館から」執筆・監修、	神奈川新聞の連載「学芸員ネットワーク、かながわの地域博物館から」は月1回第4金曜日掲載で連載が継続中。監修を担当。他の連載は企画展にあわせて随時執筆。

(6) 実習・研修の受け入れ

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習の受け入れとインターンシップなど	<p>① 博物館学芸員資格取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。</p> <p>期間：8/26(火)～8/31(日)、受入数：9人</p> <p>② 横浜市立大学および國學院大学の学生のインターンシップ(2人)</p> <p>期間：6/17(火)～10/21(火)(のべ10日間)</p> <p>③ 「子どもアドベンチャー2014」(横浜市主催)に参加 「体験しよう!資料の保存」8/20(水) 参加者数：15人</p> <p>④ 横浜市立小中学校教諭受験希望者の研修(アイ・カレッジ)に講師派遣 1/10(土)、1/24(土)、約500名</p>

(7) 広報紙の発行、一般広報等

項 目	事 業 内 容
館報「開港のひろば」発行	企画展示・収蔵資料・館活動の紹介 第124号～127号(年4回) 年間合計55,000部
リーフレット類作成	<p>横浜開港資料館案内パンフレット(小中学生用)</p> <p>横浜開港資料館案内パンフレット(一般用)</p> <p>横浜開港資料館催し物案内、年2回</p>

その他広報	①インターネットによる広報 ②メールニュースによる催し物などの情報発信 ③市営地下鉄関内駅構内の広報案内看板利用 鉄道各駅 PR ボックスへのチラシ掲出 ④みなとみらい線日本大通り駅構内のポスター掲示 みなとみらい線駅 PR ボックスへのチラシ掲出 ⑤市内類似観光施設・主要ホテル・観光案内所等への広報印刷物の配布 ⑥区連会掲示板などへのチラシ掲出 ⑦一般新聞・タウン情報誌、旅行情報誌等への随時記事掲載 ⑧TV、ラジオ、FM放送、CATV等の放送メディア利用 ⑨企画展後援新聞での連載・市広報誌等への記事掲載 ⑩各種団体のスタンプラリー等参加による集客活動
-------	--

(8) 横浜市役所などとの連携事業

項目	事業内容等
横浜市役所や横浜シティガイド協会との連携事業	「広報よこはま 中区版」に、連載記事「なか区歴史の散歩道」を都市発展記念館職員と分担して執筆。横浜シティガイド協会主催「ちょこっとツアー」の受け入れ

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するためにデータの入力等を行い文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項目	事業内容
インターネットによる情報公開	展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料の紹介を随時、行った。また、OPAC での所蔵図書の追加を順次おこない、ウェブ上での検索対象図書を増やした。「開港のひろば」の更新随時、おこなった。 ・HPアクセス件数 合計 131,421 件 (前年度 113,917 件)
メールニュースの配信	「横浜開港資料館メールニュース」を第90号～第106号(計17回)、1,096名の登録者に配信した。

6 開港資料館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

開港資料館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
開港資料館	必要に応じた施設の維持管理を実施。

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	寄贈4, 150点、寄託521点の資料を受け入れたほか、購入なども含めて4, 880点の資料を収集した。26年度末の所蔵資料総点数は26万6千点を超えた。	B
調査研究事業	調査研究員の研究事業および外部研究者に委託した調査研究活動は順調で、その成果を展示・講座・出版で公開した。研究の成果は新聞・雑誌、テレビで多数取り上げられた。	A
常設展事業	新収・新発見資料を紹介する「特別資料コーナー」や記念ホールで12回にわたって展示を開催した。常設展の大幅なリニューアルが難しい現状でさまざまなテーマのミニ展示をおこなうことができた。	B
企画普及事業	市内企業や学校との共催による展示は話題となり、好評であった。入館者数は約4万5千人超、有料入館者数は約3万人で、有料割合は高いが、今後、無料入館者を増加させる必要がある。	C
情報事業	メールニュースでの情報発信は約1000人で順調である。HPのアクセス数は13万件を超え、前年の115%であった。新聞などのマスコミへの情報発信も順調で、朝日・読売・神奈川など新聞各紙への掲載も多い。	A
施設維持事業	放送設備などの工事を実施したほか、設置者にシルクセンター内に収蔵庫を確保していただき、一部収蔵資料を移管した。	B

VI 都市発展記念館事業

都市発展記念館では、昨年度に引き続き近現代歴史資料課が運営する都発・開港・市史の3施設連携事業を積極的に展開しました。それぞれの施設の展示に特色を持たせた結果、相乗効果が生まれ入館者の増加につながりました。現在も3施設は共同して調査・研究を進めており、その成果は今後も各施設で紹介していきます。

特別展「あこがれの『団地』」は、総入館者数が9,000人を超え、目標を大幅に上回りました。また、アンケートの回収率が非常に高い上で満足度もたいへん高い結果となりました。

このほか、吉田新田解説小学校団体見学の受け入れも順調に増加し、116校、10,140人がありました。さらにユ一文と共同して夏祭りなどのイベントも開催し、この結果、常設展入館者数(41,861人)、企画展入館者数(18,104人)に達しました。

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

横浜の都市形成、生活文化の歴史に関する資料を、購入・複製・マイクロ撮影等により収集し、分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、資料の修繕・燻蒸や定期的な環境調査を行いました。

(1) 資料収集

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈31件 11,906点 寄託0件 0点	主な収集資料：五十嵐英壽氏撮影写真、長谷川弘和氏鉄道関係資料、公田町団地入居説明会資料
資料の購入	88件 126点	主な収集資料：飛鳥田一雄回想録、写真「横浜正金銀行本店」、Dependents Housing in Japan and Korea、夢の国ドリームランド、翼賛常会必携、モトマチアン、徴兵検査の心得概要、自動車競走双六ほか
資料修繕	0件	主な修繕資料：なし
資料の複製収集	1件 74点	主な複製資料：神奈川県警察本部所蔵資料
資料のデジタル化	21点	主な資料：団地展関係地図資料
複製資料の提供	46件 101点	他の博物館や公共機関、出版社、個人などへ所蔵資料を画像で提供した。
資料の貸出	2件 20点	他の博物館施設での展覧会に当館所蔵資料を貸し出した。

(2) 資料収集実績（H25.4～H26.3）

区分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
遺物	1 (0)	0 (0)	179 (1)	0 (0)	180 (1)	1,538 (1,358)
図書	77 (39)	0 (0)	11 (1)	0 (0)	88 (40)	2,168 (2,080)
新聞雑誌	12 (12)	74 (0)	68 (119)	0 (0)	154 (131)	2,110 (1,956)
文書	2	0	6	0	8	3,381

	(31)	(0)	(0)	(0)	(31)	(3,373)
紙票類	28 (10)	0 (0)	2544 (33)	0 (0)	2572 (43)	4,744 (2,172)
写真	1 (1)	0 (0)	9097 (406)	0 (0)	9098 (407)	16,413 (7,315)
絵葉書	0 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (6)	2,418 (2,418)
地図	5 (17)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (17)	676 (671)
図面	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	938 (938)
絵画	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (1)
映像	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	54 (54)
録音資料	0 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (3)	171 (171)
電子資料	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	21 (21)
合計	126 (116)	74 (0)	11,906 (560)	0 (0)	12,106 (676)	34,634 (22,528)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 資料の保存・管理

項目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	大型資料については「ふくろう君」(文化財用炭酸ガス)による資料の燻蒸を実施した。また、小型、少量の資料については、脱酸素剤を用いた無酸素法により適宜資料の殺虫処理をおこなった。
環境調査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境調査をユーラシア文化館と共同で実施した。

(4) 資料保管施設

保管施設	保管資料
都市発展記念館・ユーラシア文化館収蔵庫(200㎡)	図書、文書、紙票類、地図、図面、出土遺物などを収蔵
外部倉庫(子安台)	大型家具(昭和初期の置時計・大テーブル他)などを収蔵
外部倉庫(大黒ふ頭)	麻真田関係資料、映像フィルム、未整理資料などを収蔵

2 調査研究事業(定款第4条第1項第1号①)

「都市形成」「市民の暮らし」「ヨコハマ文化」の3つのテーマに即して、資料調査・研究を行いました。また、**開港資料館・市史資料室との連携研究事業を進めました。**

(1) 基礎的調査研究

項目	目的・意図 及び 内容・成果
横浜市域の近代遺跡と出土遺物に関する調査研究(4/5年次)	本年度は資料データベースに記載する遺跡名称および入力情報の見直しと統一とおこない、未整理の遺物について水洗・注記作業を進めた。また北仲通の煉瓦造遺構などあらたに発見された遺

	構の整備にともない、出土遺物を採集した。
館蔵総合文書目録の作成に関する調査研究（3／3年次）	資料群ごとに原資料にあたって仮目録との照合作業をおこない、目録発行の準備を整えた。また、本調査研究の過程で整理した資料の一部を次年度特別展「時計屋さんの昭和日記」で公開する。
地図データベース作成に関する調査研究（3／4年次）	当館および開港資料館、市史資料室が所蔵する地図資料を横断的に検索ができるよう整理・目録化を図る事業である。今年度も、前年度から継続して、所蔵地図資料の選別とデータベース登録作業を進めた。
横浜・東京の都市生活史に関する調査研究（2／3年次）	横浜の時計店主が見つけた昭和5年から平成期に至る日記を新たに発見して借用・調査分析をおこない、戦中・戦後期の横浜の都市生活の具体的な様相を明らかにした。さらに、本日記を中心的に利用して2015年度特別展「時計屋さんの昭和日記」の準備をおこなった。本研究の成果は、今年度は月イチ講座で報告し、次年度は上記特別展・図録及び特別展開連連続講座で公開する。

（2）戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業

戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長への至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業を、市史資料室・開港資料館と連携して実施した。今年度は複数のグループに分かれて9回の定例会を開催した。うち1回は外部講師を招いての報告会（鈴木伸治氏「都市計画史から見た六大事業」）。また、公田町団地（栄区）住民への資料調査（座談会の実施）、神奈川県警察本部所蔵資料の複写など、基礎となる作業を行った。

（3）資料の調査整理

項目	目的・意図 及び 内容・成果
資料の整理・目録作成	調査研究で収集した資料・データなどの整理・目録作成を行った。 主な整理資料：長谷川弘和氏鉄道関係資料（うち昭和30、40年代の横浜市電を中心とした横浜周辺の鉄道写真）

（4）研究紀要の発行

書名	発行部数	目的・意図 及び 内容・成果
横浜都市発展記念館 紀要 第11号	1,000部	<ul style="list-style-type: none"> ・高度成長期から現在における南関東地方の市区町村別人口増加率の推移―「首都圏」の形成と変容、および横浜市域の位置付けについて― ・広瀬始親撮影写真にみる初期公営住宅の暮らし―昭和30年頃の県営藤棚アパートを事例として― ・昭和30、40年代の横浜市電を中心とした横浜周辺の鉄道写真目録―長谷川弘和氏鉄道関係資料より―

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室の維持管理を行うとともに、「常設展示室コーナー展」として話題性のある資料や新収蔵資料、企画展開連資料による展示を定期的に更新し、集客と来館者サービスに努めました。

(1) 常設展示に関する実施事業

項 目	事 業 内 容
展示資料の更新	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員研修や小学校団体見学向けに、夏期以降、コーナー「吉田新田その後」を常設的に設置した。 ・ 博物館実習の一環として、実習生による収蔵資料紹介コーナー「横浜名所―昭和初期の姿―」を一定期間設置した。
コーナー展の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築家J.H.モーガンと昭和の横浜 2/15 (土)～5/11(日) ・ 横浜市電コレクション (その1) 5/13 (火)～7/25 (金) ・ 横浜市電コレクション (その2) 7/26 (土)～10/3 (金) ・ ハマに鉄道が走った日 10/4 (土)～1/30 (金)

(2) 常設展示観覧者の推移 (目標数30,000人)

	有料入館者 (人)			無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	小中	計					
26年度	969	562	1,531	40,330	41,861	105.4%	307日	136
25年度	871	536	1,407	38,281	39,688	119.8%	306日	129
24年度	1,169	981	2,150	30,985	33,135	106.9%	307日	107

4 企画普及事業 (定款第4条第1項第1号②)

昭和期を中心とした横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるよう、またより多角的な視点から紹介できるよう、展覧会をはじめ、講座や各種イベントの開催、出版等の事業を開催しました。

昨年度に引き続き、小学校団体の受け入れや市民ボランティアの活用、ユーラシア文化館や開港資料館・市史資料室との連携、外部機関との協力に力を入れることで、幅広い事業展開を実現しました。

(1) 企画展の実施

展示名/開催期間	観覧料	入館者数	目的・内容
特別展「港をめぐる二都物語 江戸東京と横浜」 H26.1.25(土)～4.13(日) (68日)	一般 300円 小・中 150円	26年度分 852人 会期総数 9,908人 (目標数 5,600人)	<p>本展では、港をめぐる江戸・東京と横浜の動きを横浜開港(1859年)から東京開港(1941年)までたどりながら、ふたつの港の歴史的風景を紹介した(開港資料館と共催)。都市横浜と東京との関係を考える初の展覧会であり、東京のメディアでも紹介され、東京方面から多くの観覧者を集めた。</p> <p>【関連事業】</p> <p>①展示担当による展示解説 4/5(土) 31人</p> <p>②写真パネル展「高度成長期 横浜の港」 ～4/13(日) 会場:1階ギャラリー</p> <p>③中野武正氏写真展「記憶の残像Ⅱ 横浜逍遙」</p>

			～4/20（日） 会場：旧第一玄関
企画展 五十嵐英壽写真展 「写真記者」が見つめた港の半世紀 H26. 7. 19(土) ～9. 23(火・祝) 会期 5 7 日	一般 300円 小・中 150円	7,992人 (目標数 5,700人) 1日あたり140人	「写真記者」五十嵐英壽氏が長年撮り続けてきた横浜関係写真の寄贈を記念して、写真展のかたちで広く写真を公開した。昭和27年から平成元年までの写真を中心に、時代背景を知るための関連資料（文書・地図など）もあわせて展示しながら、大栈橋の接収解除に始まりみなとみらい21地区の誕生にいたる、港を中心とした横浜の戦後史を紹介した。 【関連事業】 ①展示図録の編集・発行 定価：750円（税抜）、売上：215冊 ②五十嵐英壽トークイベント 7/26（土）、参加者 32人 ③展示担当による展示解説 8/31（日）18人、9/14（日）23人 ④写真撮影ワークショップ 「五十嵐さんの足跡をたどるヨコハマ撮影会」（企画協力：Marble Workshop） 8/3（日）、8/22（金）参加者 9人 ⑤関連写真展 「出会いの栈橋、別れの栈橋」会場：1階ギャラリー 「ハマねこ」会場：旧第一玄関 ⑥関連ワークショップ 「牛乳パックで作ろう！スクリー船！」 「船のペーパークラフトに挑戦」 「国際信号旗でメッセージをつくろう！」
特別展 「あこがれの『団地』」 H26. 10. 11(土)～ 1. 12(日) 会期 7 5 日	一般 300円 小・中 150円	9,253人 (目標数 7,500人) 1日あたり123人	日本の高度経済成長を象徴する東京オリンピックからちょうど半世紀となるのを機会に開催。当時、横浜市内には多数の住宅団地が建設され、都市の姿と市民の生活は大きく変化していった。この特別展では、「団地」をテーマにして、高度成長を迎えた都市横浜のあゆみをふりかえった。 【関連事業】 ①展示図録の編集・発行 定価：800円（税抜）、売上：448部 ②展示担当による展示解説 10/19（日）15人、11/16（日）21人、 12/14（日）15人、1/11（日）49人 ②連続講座「高度成長を迎えた都市横浜」

			<p>11/22（土）13人、12/6（土）11人</p> <p>③ミニ劇場「昭和の団地スケッチ～横浜編」 出演：ミュージアム・シアター・ワークショップ 11/23（日・祝）、12/7（日）各2回 参加者55人（11/23）、55人（12/7）</p> <p>④写真パネル展「洋光台43年の今昔物語」 協力：「ルネッサンスin洋光台」今昔フォトコンテスト実行委員会、UR都市機構、他 会場：1階ギャラリーおよび旧第一玄関 会期：10/25（土）～11/21（金）、12/13（土）～1/12（月・祝）</p>
次年度企画展準備			特別展「時計屋さんの昭和日記」の準備のため、市民の所蔵する昭和期の日記の分析を進めた。
			次年度の財団全施設連携展示の分会場として、開港資料館との共同展示を設定し、市史資料室の協力も得ながら、陸上交通をテーマとした展示内容の検討をおこなった。



五十嵐英壽氏トークイベント



ミニ劇場「昭和の団地スケッチ」

(2) 企画展示室観覧者の推移（目標数13,200人）

	有料入館者 (人)	無料入館者 (人)	合計(人)	前年比	開館日数	1日平均 入館者(人)
26年度	4,373	13,731	18,104	84.7%	144	125
25年度	5,589	15,768	21,357	151.3%	143	149
24年度	4,450	9,665	14,115	89.2%	112	126

(3) 講座・講演会・歴史散歩など普及事業

事業名称	参加者数	事業内容
「ミュージアム・クイズラリー」	331人	子ども向け夏休み企画として、神奈川県立歴史博物館を

よこはま2014」への参加 H26. 7. 19 (土) ~8. 31 (日)	(当館のみ)	中心に関内・山手地区の博物館施設 15 館でクイズラリーを実施した (県立歴史博物館主催)。
夏祭りの開催 H26. 8. 16 (土)・17 (日)	4,087人	ユーラシア文化館と共催。両日無料開館。 ワークショップ「アニメで作る横浜港」、「蒸気船をつくろう」、「国際信号旗」、缶バッジ制作、中庭ゲル、馬頭琴コンサート、大道芸、アイスクリーム販売など 活動支援ボランティアによる支援 (のべ 40 人)
「子どもアドベンチャー2014」への参加 H26. 8. 19 (火)・20 (水)	15人	市教育委員会が主催する子ども向け夏休み企画「子どもアドベンチャー2014」に参加。市内小中学生を対象に「一日まるごと博物館」と題して、展示解説体験や出土煉瓦の水洗い、受付体験、バックヤードツアーを実施した。
横浜都ユ大道芸の開催 4/13. 5/11. 6/8. 7/13. 9/14. 10/12. 11/9. 12/14. 1/11. 2/8	861人	月 1 回第 2 日曜日に、中庭・旧第一玄関を利用して大道芸を開催。大道芸にあわせて旧第一玄関の大棧橋通り側の扉を開放し、歩行者の誘導を試みた。
月イチ講座の開催	133人	1 階ギャラリーを活用した月 1 回の定例の講座を、ユーラシア文化館と共同で開催した。 第 1 回「建築家たちの昭和 ジェイ・ハーバート・モーガン」(4/19、21 人) 第 2 回「館蔵資料から探る昭和の横浜—昭和 20 年代編—」(5/24、20 人) 第 3 回「『市電』の誕生とその黄金時代」(6/14、20 人) 第 7 回「戦後混乱期の横浜の暮らし」(1/24、18 人) 第 8 回「山下公園をめぐるハマの昭和史」(2/14、29 人) 第 9 回「横浜市電・最盛期とその限界」(3/21、25 人)
開館祭の開催 H27. 3. 14 (土)・15 (日)	4,616人	ユーラシア文化館と共催。両日無料開館。 旧横浜市外電話局建物見学ツアー (3 回、各 15 名)、特別展展示案内、缶バッジ制作、中庭ゲル、馬頭琴コンサート、大道芸など 活動支援ボランティアによる支援 (のべ 26 名)



横浜都ユ大道芸



旧横浜市外電話局・建物ツアー

(5) 学校連携事業

項 目	事 業 内 容
市内小学校団体見学の受入	小学校4年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」(関外地区の発展)をテーマに、職員による解説とミニ体験のメニューを実施。116校、10,140人の小学校4年生の団体入館があった。(前年度104校、9,161人)
教員向け研修の実施	財団エデュケーターと内容を検討し、小学校4年生向けのメニュー「吉田新田の開発とその後」について、夏休みに小学校教員向けの研修を実施した(参加者60人)。
学芸員実習の受け入れ	3名の学生を受け入れた。実習生を主体としてミニ展示を企画してもらい、学芸員の仕事について総合的な理解を深めてもらうと同時に、当館の展示事業のひとつにつなげた。
中学生職場体験の受け入れ	2校計4名の中学生職場体験を受け入れ、ブログを使った広報、煉瓦の拓本採取などの作業を実施した。



市職員・教員向け研修



博物館実習生による実習展示

(6) 近現代歴史資料課での施設間連携の強化

項 目	事 業 内 容
連携企画展の実施	特別展「あこがれの団地」は、開港資料館・市史資料室との連携研究会での調査研究の成果を公表する形で開催した。また次年度の財団全施設連携展示の分会場として、開港資料館との共同展示を設定し、市史資料室の協力も得ながら、陸上交通をテーマとした展示内容の検討をおこなった。
地図データベース作成に関する調査研究	当館及び開港資料館、市史資料室が所蔵する地図資料を横断的に検索ができるよう整理・目録化を図る事業である。三施設の既存の地図データを統合して母体となるデータベースをまず作成し、次に各施設で所蔵する地図資料を順次調査してデータベースの拡充を進めた。

共同資料調査	開港資料館、市史資料室との連携研究会で実施する資料収集・調査事業として、栄区公田町団地内住民への資料調査、神奈川県警察本部所蔵資料の調査などを実施した。
--------	--

(7) 広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	都市発展記念館・ユーラシア文化館個々で作成していた館紹介リーフレットと半期ごとの催し物案内を、大きく見やすいものに統合した。また、企画展チラシだけでは発信しきれないイベント情報を別刷りの自主製作チラシで作成し、配布先の見直しを図りながら、定期的に配布した。 <ul style="list-style-type: none"> ・横浜都市発展記念館催し物案内（館案内リーフレット） ・企画展ポスター・チラシ ・館報『ハマ発Newsletter』第22、23号（各10,000部）
優待カードの発行	年間パス「EAハマ発カード」の販売を継続した。 年会費 1,500円
その他広報	横浜市を通じての記者発表 横浜市文化観光局の媒体を通じての広報活動 市内学校・公共施設へのチラシ配布 日本大通り駅改札外・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信 テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入 新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入 市内観光案内所へのチラシ訪問配布 市外都市旅行代理店への施設説明 フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
ホームページ運営	新着情報の発信 企画展示案内の更新 館報『ハマ発Newsletter』の全文掲載 ミュージアムショップの案内（刊行物・グッズ） 「横浜絵葉書データベース」等収蔵資料の画像公開

メールニュース配信	希望者に対してメールニュースの配信を実施した。当館の催し物について担当者がわかりやすく記事を執筆し、情報の羅列ではなく、読みでのある内容とした。 配信数 42号～46号+号外2回 計8回
ブログでの情報発信	催し物案内や、企画展の見どころ、日常業務などを、各担当者が写真付きでタイムリーにブログで発信した。 記事総数 19件（前年度18件）
インターネットによる新着情報発信	ホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物等の紹介を行った。 アクセス件数 73,900件（前年度72,924件） *Total Unique IPsの数値。ページビューは457,914件

6 都市発展記念館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

都市発展記念館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
都市発展記念館	施設の維持管理 ・主な修繕：2F, 4F常設展示室空調機修繕。地下機械室収蔵庫送風排気ファン修繕。

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	企画展「五十嵐英壽写真展」に出品した写真を含め、五十嵐氏の撮影した写真の寄贈を受け入れたほか、長谷川弘和氏の収集した鉄道関係資料などの寄贈を受けた。本年度の収集資料点数は購入・複製を含め1万2千点に達した。	A
調査研究事業	調査研究事業としては開港・市史と共同で地図データベースを作成したほか、3施設共同で戦中・戦後期の都市横浜に関する研究を展開し、大きな成果を得た。	A
常設展事業	常設展示室内にコーナー展示を設け、新収資料を展示したほか、話題性の高い資料を公開し、目標の140%の入館者となった。	S
企画普及事業	企画展は「五十嵐英壽写真展」と「あこがれの団地展」を開催した。企画展入館者は目標値を大きく上回ったが、有料入館者は昨年度を下回った。	A
情報事業	ホームページ、メールニュース、ブログなどの運	B

	営は当初の計画通り順調に実施した。	
施設維持事業	施設の老朽化にともない、近年、いくつかの不具合が発生しているが、緊急の修繕などを実施している。	B

Ⅵ ユーラシア文化館事業

企画展「福を呼ぶ中国版画の世界ー富貴・長寿への日中夢くらべー」を開催。その他、都市発展記念館特別展と連携した常設展示室内の写真パネル展「ユーラシア二都物語」、特別公開「フィリピンの土器」・「古代エジプトの木棺」等を実施しました。常設展示室ではさらに2回の特別公開を行いました。1月末からは東海大学と連携した企画展「古代エジプト ファラオと民の歴史」を開催しました。

調査研究では、引き続き歴史博物館の協力を得てユーラシア概念の一般化を目指す研究を進め、その概要を紀要に載せました。学校との連携では定着した小学4年生の学校団体見学利用に加え、当館独自の取り組みとして、小学2年生のモンゴル童話学習と関連付けて、昨年は試行であったゲルを活用した見学及び体験学習を本格的に事業化し、大きな成果をあげました。

普及啓発事業では、昨年度に引き続き1階のフリースペース（ギャラリー、旧第一玄関）や中庭を活用し、企画展関連ミニ展示や各種パネル展、写真展、ミニコンサート、大道芸やワークショップ、ユーラシア文化館・都市発展記念館専門職員の連続講座（月イチ講座）など多様な催しを実施しました。また、6月2日の開港記念日、夏期の夏祭り、3月の開館祭を無料開館とし、市民の方が当館を身近に感じていただけるような様々なイベントを展開しました。

以上の取り組みの結果、常設展観覧者数は41,762人（1日平均138人）、企画展観覧者数は18,051人（1日平均169人）、市内学校団体来館数は122校、10,286人（内小学校4年生116校10,140人）となり、いずれも目標値を超え、常設展・企画展の1日平均の来館者数と市内学校団体来館数は過去最高の数値となりました

1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

ユーラシアの考古・美術・民族・歴史資料および文献等を分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、収蔵庫や展示室を常に適切な状態に保つよう環境検査を行いました。

（1）資料収集・保存

項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈2709点 寄託0点	主な収集資料：高橋コレクション（アジアの貨幣等）、西南中国の民族資料、青銅製銜（中国、戦国時代）、1998年中パ公路踏査記録写真等
資料の購入	0点	主な収集資料：なし
資料熟覧	6件	カットガラス碗（北京大学教授による資料調査）、馬俑等8点（関東学院大学学生による調査）ほか
文献資料熟覧	12件	鏡関連研究書（市民研究者）、『考古学上より見たる遼の文化図譜』（市民研究者）ほか
資料の貸出	2件	小学校への学習教材（民族衣装、馬頭琴など）の貸出し2件11点あり。
収蔵資料の画像利用	1件	羊形リュトン等5点（『大学生の視点による神奈川県博物館ガイド』）

(2) 文献資料の整理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
和図書	書誌データの入力を行い、内容を確認した。入力確認件数 695 件
和図書	書誌データの入力を行い、OPAC 公開した。入力件数 828 件
雑誌	書誌データの入力を行った。入力件数 226 件 目次入力を行った。入力件数 307 件

(3) 資料収集実績

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
考古・美術・民族・ 歴史資料	0 (-)	0 (-)	2,709 (7)	0 (-)	2,709 (7)	7,424 (4,715)
図書	48 (2)	0 (-)	71 (61)	0 (-)	119 (63)	20,541 (20,422)
雑誌	4 (4)	0 (-)	18 (22)	0 (-)	22 (26)	8,031 (8,009)
電子資料	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	17 (17)
合 計	52 (6)	0 (-)	2,798 (91)	0 (-)	2,850 (97)	36,013 (33,139)
累計	889	2	34,949	173	36,013	

※ () 内は、前年度点数。

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	平成 26 年度は実施せず。次年度実施予定。
環境検査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年 6 回の環境検査を実施した。

(5) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
都市発展記念館・ユーラシア文化館収蔵庫 (200 m ²)	考古・美術・民族・歴史・文献資料を収蔵
外部倉庫 (大黒ふ頭)	図書 (江上文庫の重複本など)、販売用出版物などを収蔵

2 調査研究事業 (定款第 4 条第 1 項第 1 号)

収集資料の整理、企画展や講演会の基礎的資料収集・調査研究を行いました。昨年度から、東部ユーラシア世界に関する歴史博物館との共同研究も開始しました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
日本における「ユーラシア」の理解に関する研究 (3 / 3 年)	「東部ユーラシアの文化交流の研究」と本研究を一本化し、両研究の成果としてユーラシア研究会の発表要旨を紀要第 3 号に掲載した。また、出版物における「ユーラシア」の扱われ方については、前年度までの研究発表に反映した以上のものを早急に求めることは困難と考えられ、次年度以降のユーラシア研究会の継続を検討する中で再検討することとした。

東部ユーラシアの文化交流の研究（3／3年）	歴史博物館と連携し、共同研究会を実施。歴史博物館学芸員および外部研究者の協力を得て、日本を含む東部ユーラシア諸地域についての最新調査研究成果を共有した。各研究報告については、当館紀要にて要旨を公開している。 歴史博物館との連携事業。
館蔵シベリアの岩壁画関連資料の研究（1／2年）	館蔵の岩壁画研究書のリスト化を行った。更に寄贈の申し出を受け研究書整理を継続、その過程で館蔵の岩壁画拓本の採拓地の一部を確認できた。外部研究者と交流を図りつつ、岩壁画のある遺跡を踏査し、紀要に報告を掲載した。
フィリピン出土の陶磁器に関する研究（1／2年）	次年度の企画展に向けて外部研究者と交流を図りながら展覧会概要および借用資料の検討を開始した。館蔵のフィリピンを含む東南アジア採集の陶磁片については、受贈時のリストを再確認するにとどまった。
中国版画の研究（1／1）	東アジア文化に対する理解を深める事業の一環として、中国伝統文化や庶民の生活・思考を映す中国民間版画に注目し、市民所蔵の資料を中心に調査した。研究成果は企画展示および図録にて公開した。
横浜市内にあるユーラシア関連資料の調査・研究（4／5年）	デジタルアーカイヴズの一つとして、市民研究者の協力を得て、中国鏡銘文データベース「漢三國西晉鏡銘集成」を公開した。 また、市民から寄贈を受けたユーラシア関連画像資料をデータベースとして公開するため、入力フォームを再検討した。平成26年度受贈の画像資料のデジタル化を開始した。
遊牧世界の物質文化の研究（4／5年）	海外の遊牧関連資料に接する機会を得てその写真撮影を行い、これまでに撮影した写真類とあわせて整理し、展示、講座、外部研究会で公開した。また、外部研究会に参加して知識を深め、展示や講座の内容に反映させた。
収蔵資料と関連資料の研究（4／5年）	館蔵ガラス資料に関連する調査を行い、特別公開「フスタート遺跡出土ガラス瓶」実施の際に関連収蔵資料（イスラームガラス）を展示公開した。また、イスラム文学作品からガラスに係わる記述（化粧、装身具）の抜きだし作業を行った。
メソポタミア楔形粘土板文書の研究（4／5年）	ガラスビューの英語版作成は技術的な問題が発生したため作業を休止した。研究者だけではなく一般の方にもくさび形文字粘土板文書の概要がわかるように、この資料を総合的に紹介するサイト作成を進め、平成27年1月にWeb上に公開した。
エジプト関係資料の研究（2／3年）	東海大学所蔵エジプトコレクションの中でもファラオ時代からイスラム時代までの民の歴史に関わる資料の調査を行い、その成果を企画展示及び図録で公開した。

3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室において、収蔵資料の特別公開や、企画展と連動した展示替えを行いました。また、展示資料に関連するクイズを配布するなど、集客とサービスの向上を図りました。

(1) 常設展示室での実施事業

項目	事業内容
展示更新	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示室入口に「スーホの部屋」を設置。モンゴルの家具展示部分を公開、ライブラリーには遊牧民に関する映像が見られるパソコンを設置、モンゴル関連図書リストを整備。(7月19日～) ・写真パネル展「ユーラシア二都物語」1月15日(火)～4月13日(日) 観覧者数 計 11,010人 本パネル展は東アジア文化都市 2014 横浜パートナー事業の認定を受け実施。 ・特別公開「フィリピンの土器」6月17日(火)～7月13日(日) 観覧者数 計 1,851人 本特別公開は東アジア文化都市 2014 横浜パートナー事業の認定を受け実施。 ・特別公開「古代エジプトの木棺」7月1日(火)～7月17日(木) 観覧者数 計 955人 ・特別公開「エジプト・フスタート遺跡出土のガラス瓶」9月2日(火)～9月28日(日) 観覧者数 計 2,676人 ・特別公開「大陸調査の先駆・大谷探検隊ー21世紀の研究成果からー」10月7日(火)～11月3日(月) 観覧者数 計 2,797人 本特別公開は東アジア文化都市 2014 横浜パートナー事業の認定を受け実施。 ・特別公開「自鑪庁至烏斯蔵程站輿図」12月9日(火)～12月23日(火) 観覧者数 計 1,868人 本特別公開は東アジア文化都市 2014 横浜パートナー事業の認定を受け実施。

(2) 常設展示観覧者の推移(目標数 30,000人)

	有料入館者(人)			無料入館者(人)	合計(人)	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	小中	計					
26年度	1,359	338	1,697	40,065	41,762	106.4%	306日	137.8
25年度	801	315	1,116	38,116	39,232	125.5%	306日	128
24年度	637	277	914	30,356	31,270	95.4%	307日	102

4 企画普及事業(定款第4条第1項第1号②)

都市発展記念館と二施設一体となって市内学校団体受入や、市民ボランティアの活用によるワークショップの充実、各種イベントを実施しました。

(1) 企画展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展 「福を呼ぶ中国版画の 世界ー富貴・長寿への日 中夢くらべー」 H26.4.26(土)～	一般 300円 小中 150円	5,808人 (目標数 5,600人) 1日あたり 104人	市民コレクターの収集品である世界的に希少な中国民間版画(清王朝から中華民国時代)に着目し、家族と子どもの幸福をメインテーマとした作品約60点を初公開した。あまり知られていない日本の浮世絵への影響を明示したほか、版画・美術工芸品・民芸

<p>6.29 (日) 会期 56 日</p>			<p>品を通して日中共通の伝統的心情を浮彫にすることで、横浜ならではの展示として市民の共感を得た。本展は東アジア文化都市2014横浜パートナー事業の認定を受け実施。</p> <p>①学芸員および展示監修者によるギャラリートーク 4回実施 参加者数 計 101 人</p> <p>②講座 2回実施 参加者数 計 58 人</p> <p>③ワークショップ 土日祝日 中国伝統工芸体験 参加者数 計 484 人</p> <p>④図録の編集・発行・販売 定価 720 円、会期中 236 冊販売</p> <p>⑤旧玄関を活用した関連写真展を開催 「横浜中華街 2014 春節フォトコンテスト入賞作品展」</p>
<p>企画展「古代エジプト ファラオと民の歴史—東海大学のエジプトコレクション— H27. 1. 31(土)～4. 5(日) 会期 56 日</p> <p>*平成 26 年度分 H27. 1. 31(土)～ 3. 31(火) 会期 51 日</p>	<p>一般 300円 小中 150円</p>	<p>*平成26 年度分 12,243人 1日あたり 240人</p> <p>*全会期 13,331人 (目標数 5,600人) 1日あたり 238人</p>	<p>東海大学との共同展示。東海大学所蔵コレクションを通して古代エジプトの人々の生活と精神性を紹介。また、パピルス文書などの修復保存に対する取組みや東海大学情報技術センターによる宇宙考古学調査の最新成果も公開した。古代エジプトという人気のあるテーマと東海大学生による資料解説、ワークショップの好評さも重なり、過去最高の入館者数となった。</p> <p>① 内覧会の実施 1/30 (金) 午後 4 時開始 会場：1 階ギャラリー エジプト駐日大使にご臨席を賜り、横浜市教育長、東海大学学長、当財団理事長、関係者が参加。</p> <p>② 関連企画 (開催期間 1/31～3/31)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東海大学と宇宙考古学」展 会場：1 階ギャラリー ・写真展「エジプト学者鈴木八司のまなざし」 会場：1 階旧第 1 玄関 <p>③ 学芸員及び展示関係者による展示解説 4 回実施 参加者数 計 127 人</p> <p>④ 東海大学生による解説ボランティア (土・日・祝)</p> <p>⑤ ワークショップ 土・日・祝日にパピルス修復体験、ヒエログリフでしおり作り、エジプト絵本読み聞かせ、古代エジプト衣装の試着等を実施。東海大学生による自主企画。期間中 20 回実施。</p> <p>⑥ 関連イベント</p>

			「ベリーダンスの世界」 2/22（日）3/22（日）に実施。参加者数 計 86 人 講師：Izumi (Izumi Oriental Dance Studio 主宰) 会場：情文プラザ（横浜情報文化センター1階） ⑦ 図録の編集と販売 東海大学との共編で図録を作成。発行は東海大学出版部。定価 1,728 円（税込）販売部数 249 冊
企画展基礎調査			来年度開催予定企画展の基礎調査を行った。



展示解説



企画展関連ミニ講座



パピルス修復体験

(2) 企画展示室観覧者の推移（目標数 11,200 人）

	有料入館者 (人)	無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館日数	1 日平均 入館者 (人)
26 年度	4,505	13,546	18,051	122.3%	107	169
25 年度	3,998	10,754	14,752	98.3%	114	129
24 年度	3,944	11,061	15,005	105.7%	131	114

(3) 講座・講演会

項 目	参加者数	内 容
月イチ講座の開催	70人	1階ギャラリーを活用し、気軽に参加できる講座を月に一回開催した。都市発展記念館と連携 第1回「フィリピンの土器」（7/12 8名） 第2回 「館藏品に見る馬たち」（8/23 9人） 第3回「エジプト・フスタート遺跡出土のガラス瓶」（9/27 22人） 第4回「館蔵ガラス瓶 III」（10/11 9人） 第5回「仏教美術の魅力I」（11/15 13人） 第6回「『スーホの白い馬』の世界I」（12/13 9人）

(4) 普及啓発

項 目	参加者数	事 業 内 容
写真展「古代エジプトの神秘を追いかけて—エジプト壁画研究家、村治笙子の世界—」	472 人	古代エジプトの神殿や墓の壁画を通して文字や絵の形や意味について紹介した。共催で実施。関連企画として特別講座やワークショップを行った。

H26.7.1(火)～7.17(木)		特別講座(7/5 2回)100人、ミニ講座(2回)90人 ワークショップ(4回)138人
「ゲルに集まれ！」 H26.5.24(土)～6.2(月・祝) H26.8.9(土)～8.17(日) H27.3.7(土)～3.15(日)	3,684人	市民、ボランティアと共に中庭にゲルを組立、解体。開催期間中は、「自分だけのゲルを作ろう!」、モンゴル衣装の試着等を行った。本企画は東アジア文化都市2014横浜パートナー事業の認定を受け実施。
「横浜読書百貨展」への参加 H26.11.2(日)	912人	教育委員会が主催する横浜市読書活動推進ネットワークフォーラム「横浜読書百貨展」に参加し、会場に建てたゲルを拠点にモンゴル絵本のお話し会や馬頭琴体験などのワークショップを行った。
「子どもアドベンチャー2014」の開催 H26.8.19(火)・20(水)	15人	市内小中学生を対象に1日職業体験を実施した。展示解説体験や出土煉瓦の水洗い、受付体験、バックヤードツアーなどを実施した。
「ミュージアム・クイズラリーよこはま2014」への参加 H25.7.19(土)～8.31(日)	336人	子ども向け夏休み企画として、神奈川県立歴史博物館を中心に関内・山手地区の博物館施設15館で実施した。
夏まつり H26.8.16(土)・17(日)	4,087人	都市発展記念館と連携し、全館無料の「夏まつり」を開催。市民ボランティア・市民グループの協力を得てイベント・ワークショップを実施した。 モンゴルの童話 おはなし会 [情文プラザ] 読み手: ことりの会、中図書館ボランティアグループ・モックの会 協力: 中図書館 馬頭琴 きける!ひける!演奏会 [情文プラザ] 演奏: 宮原洋子 体験ワークショップ [情文プラザ] ・民族衣装を着てみよう!
横浜都ユ大道芸 4.13、5.11、6.8、7.13、9.14、10.12、12.14、1.11、2.8	861人	月1回第2日曜日に、中庭・旧第一玄関を利用して大道芸を開催。大道芸にあわせて旧第一玄関の大棧橋通り側の扉を開放し、歩行者の誘導を試みた。
よこはま国際フェスタ2014 H26.10.18(土)・19(日)	625人	よこはま国際フェスタ2014に参加し、ワークショップ・民族衣装試着体験などを実施。市民ボランティアの協力を得た。
開館祭 H27.3.14(土)・15(日)	4,616人	都市発展記念館と連携し、全館無料の「開館祭」を開催。市民ボランティア・市民グループの協力を得てイベント・ワークショップを実施。 ゲルの組立・解体 [中庭] モンゴルの童話 おはなし会 [情文プラザ] 読み手: ことりの会、中図書館ボランティアグループ・モックの会 協力: 中図書館

		馬頭琴 きける！ひける！演奏会〔情文プラザ〕演奏：宮原洋子 体験ワークショップ〔情文プラザ〕 ・シャガイで遊ぼう！ ・モンゴルの民族衣装を着てみよう！ 大道芸〔中庭〕
日本大通り「ちょこっとツアー」 10月から3月までの隔週土曜		日本大通り観光インフォメーションスクエア社会実験事業協議会主催「日本大通り「ちょこっとツアー」」の実施



ゲルに集まれ！



読書活動フォーラムに参加

(6) 学校連携事業

項 目	事 業 内 容
市内学校団体見学の受入	小学2年生のモンゴル童話（スーホの白い馬）学習と関連で、2校の来館と1校への教材貸出を行った。また小学校4年生のカリキュラムで学習する吉田新田にあわせて、「吉田新田の開発とその後」（関外地区の発展）をテーマに、職員による解説と体験メニューを実施した。 122校 10,281人（うち、小学校4年生 116校 10,140人）
教員向け研修の実施	財団エデュケーターと、吉田新田の学習をはじめとする教員向け研修を実施した。
学芸員実習の受け入れ	11名の学生を受け入れた。企画展準備や実習により、学芸員の仕事について総合的な理解を深めると同時に、当館イベントスタッフとして活躍した。
インターンシップの受け入れ	2名の学生を受け入れた。当館イベントやワークショップのスタッフとして職業体験を行った。
職業体験の受け入れ	小中学生の1日職業体験（子どもアドベンチャー・前述）及び中学生を中心とした職業体験の受け入れを行った。中学生については合計で2校4名を受け入れた。



子どもアドベンチャー



常設展示室入口の
「スーホの部屋」

(7) 市民協働事業

項 目	事 業 内 容
市民ボランティアによるワークショップの実施	<p>歴史博物館の協力を得て、歴史博物館活動支援ボランティアによる当館でのワークショップを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲル組立ワークショップのべ活動人数 計 58 人 ・「中国結びと剪紙」のべ活動人数 計 284 人 ・夏祭りイベントのべ活動人数 計 40 人 ・開館祭りのべ活動員数 26 人 計 408 人

(8) 広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	<p>都市発展記念館・ユーラシア文化館個々で作成していた館紹介リーフレットと半期ごとの催し物案内を、大きく見やすいものに統合した。また、企画展チラシだけでは発信しきれないイベント情報を別刷りの自主製作チラシで作成し、配布先の見直しを図りながら、定期的に配布した。館報については、継続して配布した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜ユーラシア文化館催し物案内（館案内リーフレット） ・企画展示ポスター・チラシ ・館報『News From EurAsia』第21・22号（各10,000部） ・横浜ユーラシア文化館紀要 第3号を発行（1,000部、3/31） ・関内地区5館（開港資料館・都市発展記念館・ユーラシア文化館・新聞博物館・放送ライブラリー）の学校誘致チラシ作成・配布
優待カードの発行	<p>年間パス「EAハマ発カード」の販売を継続した。 年会費 1,500円</p>
その他広報	<p>日本大通り観光インフォメーションスクエア社会実験事業協議会の「インフォメーションカウンター」を情文プラザに設置 横浜市を通じたの記者発表 市内学校・公共施設へのチラシ配布 日本大通り駅改札外・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスタ</p>

	<p>一掲出</p> <p>ホームページ・ブログによるインターネットでの情報配信</p> <p>テレビ・ラジオ・ケーブルテレビ・インターネット等放送媒体への情報提供、取材受入</p> <p>新聞各社・雑誌・タウン情報誌・旅行情報誌・その他広報誌等への情報提供、取材受入</p> <p>市内観光案内所へのチラシ訪問配布</p> <p>市外都市旅行代理店への施設説明</p> <p>フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR</p> <p>近隣へのダイレクトメール発送</p>
--	--

5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、調査研究・展示・出版・講演会・ミュージアムショップなどに関する情報を提供するために、データの更新等を行い、情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項目	事業内容
簡易検索端末・文献検索端末	<p>資料：常設展示室に設置された端末で主な展示資料の検索が可能。</p> <p>文献：館蔵文献のOPACを公開することで、館外からのインターネット検索を可能にした。</p>
メールニュースの配信	希望者に対するメールニュースの配信を行った。
インターネットによる情報公開	<p>財団開設のホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料等の紹介を行った。</p> <p>アクセス件数 合計 82,883件（前年度72,020件）</p>

6 ユーラシア文化館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

ユーラシア文化館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
ユーラシア文化館	<p>施設の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な修繕：2F, 4F 常設展示室空調機修繕。地下機械室収蔵庫送風排気ファン修繕。 ・3階企画展示室照明一部のLED化。

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料収集及び整理は予定どおり進捗しました。資料の熟覧や他館への貸出など、外部利用者へのサービスも行いました。	B
調査研究事業	計画していた調査研究については、ほぼ予定どおり進捗することができました。 歴史博物館や大学との連携を積極的に行いました。	A
常設展事業	常設展については、昨年度に引き続き企画展との連動による集客のほか、都市発展記念館、学校カリキュラムとの連携を行うことで、企画展開催期間ではない時期についても、集客を図ることができました。観覧者数は前年同様目標を 30,000 人と設定。 目標数の 140% となりました。	S
企画普及事業	今年度も、都市発展記念館と一体となって、市内学校団体受入や、市民ボランティアの活用によるワークショップの充実、市民グループなどの協力による各種催しの実施など、数々の催しを実施しました。調査研究・企画展においては歴史博物館と連携し、事業の幅を広げました。その成果と企画展等の内容充実によって、 常設展・特別展の1日平均観覧者数と市内学校団体来校数については、過去最高の数値となりました。	S
情報事業	定期的なメールニュースの発行、HP を利用した情報発信に加えて、イベントごとに追加でチラシを作成・配布するなど広報強化に努めました。HP へのアクセス数は対前年度比 115% となりました。	A
施設維持事業	施設設備については、経年劣化した設備の修繕・交換と日常の維持管理を行いました。ガラス壁面や屋根の破損、防犯カメラや消防設備の経年劣化についても監視を続けながら、長寿命化を図っています。	B

VIII 三殿台考古館事業

国指定史跡である三殿台遺跡への理解を一層深めるとともに、施設の特徴を発揮し、地域や市民により親しまれる施設を目指し、各種事業に取り組みました。

資料収集保管事業では、整理ボランティアによる出土品基礎整理を継続しました。三殿台遺跡収蔵の写真等の記録資料をスキャンし、デジタル化するとともにインデックスの作成を継続しました。また、三殿台遺跡及び周辺遺跡以外の遺跡から出土した収蔵資料について順次埋蔵文化財センターへ移動しています。

常設展事業では、職員による学校団体などへの展示室の解説を行うとともに、住居跡保護棟の維持管理を適切に行いました。

企画普及事業として、リーフレットを配布するとともに、火起こし・勾玉作り・土偶作り・土器作り・石器作り・拓本とり体験教室、キャンプ in 三殿台、古代人体験教室を継続実施しました。学校や地域住民、区・市が行う行事への職員派遣・協力を積極的に行い、連携を図りました。イベント等の開催に合わせ、ホームページを更新するなど、周知に努めました。

市民協働事業として、市民ボランティアによる収蔵資料の再整理を行うとともに、ボランティアによる土曜・日曜日の常設展示・遺跡ガイドを継続実施しました。刊行物・缶バッジ・土器片ペンダント・オリジナルクリアファイルを販売するとともに、**新たにトートバッグを試作しました。**

施設の管理運営面では、事務棟・展示棟・住居跡保護棟・復元住居・擬木標示遺構の維持管理を適切に実施しました。

利用者促進事業の一環として、「土器パズル」・「ダイヤモンド富士観察会」に続き、野外を活用した「**弓矢撃ち体験**」（無料）を**本格実施**しました。

総来館者数は、第2期指定管理期間平均来館者数目標 17,500 人の 97%、前年度比約 110%と増加しました。今後もさまざまな工夫をし、市民サービスの向上、他施設・近隣学校などとの連携や市民協働による普及活動を継続していきます。

1 資料収集保管事業・調査研究事業（定款第4条第1項第1号）

保管資料について整理・分類・デジタルデータ化等を行い、資料の保全を図りました。

(1) 保管資料再整備事業

項 目	事 業 内 容
出土品保管再整備事業	収蔵庫内の棚に保管されている出土品・遺跡調査時測量図面等を移動し、ガラス引き戸・棚の清掃を実施した。一部に書類・書籍を仮収納した。
記録資料のデジタルデータ化事業	三殿台考古館保管写真資料等のデジタルデータ化を継続（写真資料については、主に資料整理ボランティアが対応している） 写真資料（三殿台遺跡）：スキャン済みカラスライドの後処理および索引作成を継続（次年度に継続）。 写真資料（港南台遺跡群）：55 シート、1,241 点、計約 42.7GB

	三殿台測量図面：調査年度・調査班単位・種類別（縮尺）に分類し、ファイリングを実施、併せて索引を作成（次年度に継続）。 三殿台遺跡全体図の再作成：測量原図を基に作成を試みた。デジタルトレースを6割程度終了（次年度に継続）。
図書資料の受入れと整理	寄贈された図書を整理分類し、151冊の受入れを行った。事務室内の書棚を整理し、閲覧頻度の低い図書の一部を収蔵庫の棚に移動した（次年度に継続）。

(2) 調査研究事業

項 目	事 業 内 容
三殿台遺跡出土品の資料化	北側貝塚出土資料の注記・ニス塗り・データ化を継続。 収蔵庫収納資料台帳の作成を水洗等の基礎整理作業の進捗に合わせて継続した（次年度に継続）。
三殿台考古館収蔵資料の活用	三殿台遺跡発掘調査の映像資料（DVD）を小学校団体見学の事前学習用に貸出した。 埋蔵文化財センター「横浜の遺跡展」・歴史博物館企画展「横浜発掘物語 2015」に出土品等を貸出した。

2 常設展事業（定款第4条第1項第1号）

遺跡・常設展示室・竪穴住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚の維持管理を行うとともに、団体および一般来館者見学時に、遺跡や展示品について解説を行いました。

(1) 常設展示の維持管理と展示内容の充実

項 目	事 業 内 容
遺跡案内・展示解説の実施	団体および一般来館者見学時に、職員による遺跡・住居跡保護棟・復元住居・展示室・北側貝塚について、2,200人（うち、学校団体1,650人）に遺跡案内・展示解説を行った。
常設展示の維持・管理、展示更新の実施	パネルの修繕等、維持・管理を適切に行った。弥生時代のコーナーに展示されていた古墳時代の砥石を古墳時代のコーナーに移し、弥生時代のコーナーに新たに砥石1点を追加した。大きな展示更新は行っていない。

(2) 住居跡保護棟の適切な保全

項 目	事 業 内 容
住居跡保護棟のメンテナンス等	竪穴住居跡保護棟のメンテナンスを委託し、適切に実施した（8回）。 5月24日、住居跡保護棟の窓ガラス8枚に低反射フィルム貼付工を実施し、反射による内部の観察障害を軽減した（4年間の実績：32/72枚）。

(3) 管理事務所2階の活用

項 目	事 業 内 容
管理事務所2階の活用	管理事務所の2階を体験学習室とし、記録資料の保管、遺物整理作業の場としても活用している。



低反射フィルム貼付工 5月24日 保護棟内メンテナンス 7月20日 事務所棟2階の使用状況 5月3日

3 企画普及事業（定款第4条第1項第2号）

市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるように、解説や体験学習を実施し、生涯学習活動を支援しました。また、施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。

（1）企画普及事業

項目	参加人数	事業内容
リーフレット配布		リーフレットを増刷し、来館者に配布した。
「いそっぴゴールデンウィークスタンプラリー」への参加	74人	4月23日から5月6日の期間で、「いそっぴゴールデンウィーク2014スタンプラリー」に参加した。この間の来館者36人、うち景品（缶バッジまたはクリアファイル）交換者は8人。5月6日には、磯子区のマスコットキャラクターである「いそっぴ」が来館した。 スタンプラリーに合わせてゴールデンウィーク体験教室を開催した。参加者38人
「子どもアドベンチャー2014」への参加	58人 (保護者等を除く)	「子どもアドベンチャー2014」に参加(8月19日)。 午前の火起こし：未就学児2人、小学生46人、中学生0人、保護者等28人 午後の拓本とり：未就学児2人小学生7人、中学生1人、保護者等6人
三殿台遺跡整理ボランティア	663人	資料整理ボランティアに記録資料整理ボランティアを加えた。 収蔵資料の水洗・注記を行い、遺物収納箱105箱終了した。 記録資料整理農地、写真資料整理・デジタル化作業については前出。 4月12・17日に記録資料整理ボランティア研修を行い、2人が参加した。考古館の使命・役割、記録資料整理の内容と手順について説明。三殿台遺跡の発掘調査の映像を視聴した。 4月23・30日に資料整理新人ボランティア研修を行い、2人が参加した。記録資料整理ボランティア研修とほぼ同内容とし、出土品整理の内容と手順につ

		<p>いて説明した。</p> <p>7月に夏休み体験教室に向けて、随時火起こし体験補助研修を実施した。</p> <p>12月21日に体験教室の新メニュー、「拓本とり&凧作り」研修を実施し、5人が参加した。</p>
三殿台遺跡ガイドボランティア	81人	<p>遺跡ガイドボランティアは年間1,161人ガイドした。</p> <p>新人ボランティアが0人だったため、日を定めた研修は実施しなかった。個別の対応とし、「よくある質問」や「困った質問」など、日常的な情報交換と対処方法などを話し合った。</p>
学校見学の受け入れ	2,930人	<p>年間を通じて、小・中・高・大学の受け入れを行い、56団体が見学した。</p>
博物館実習生・職業体験の受け入れ	7人	<p>8月11～17日、博物館実習生1名を受け入れた。</p> <p>1月28・29日、汐見台中学校生徒4人を受け入れた。</p> <p>2月3日、岡村中学校の生徒3人を受け入れた。</p>

クラブ活動・総合的な学習・サマースクール等への支援		<ul style="list-style-type: none"> ・市立岡村小学校の地域交流クラブに講師を派遣した（6月10・17日、9月9・16日、10月21・28日、11月11・25日、12月9日）。火起こし（@100）・勾玉作り（@300）各13人 売り上げ5,200円 ・市立大岡小学校6年3組の土器作りに指導講師を派遣（6月12・19日）し、7月17日に当館で野焼きを実施した。 ・に市立上大岡小学校のサマースクールに勾玉作り教室の講師を派遣した（7月25・28日）。勾玉作り（@300）51人 売り上げ15,300円 市立岡村小学校6年生土器作りに指導講師を派遣（10月21・28日）し、11月27日に当館で野焼きを実施した。 ・市立大岡小学校2年1組「まち歩き」の受け入れ（9月17日、10月8・24日、11月5・14・20日、12月5・15日、1月14・20日、2月4日、3月13日）。平成27年2月21日の文化祭で「あそぶぞ！一二三との台いせき」として発表。
ホームページの運営		<p>月一回程度ホームページを更新し、体験学習の情報等を発信した。今年度より「年間催し物案内」を常時掲載することとした。</p>
その他広報		<p>（ア）体験学習の案内チラシを年3回程度作成し、磯子区・南区内の施設に配布した。</p>

		<p>(イ) プラネット神奈川や横浜カレンダーに情報を提供した。</p> <p>(ウ) 民間への情報提供は5件であった (MAPPLE・ゼンリン・JR 東日本等)。</p> <p>(エ) Google インドアビューを導入し、HPの「新着情報」のコーナーに貼込んだ。</p>
--	--	---



「いそっぴ」の来館 5月6日



子どもアドベンチャー2014
8月19日



職業体験 土器パズル作り
1月29日

(2) 体験学習事業

項目	参加人数	事業内容
体験学習の実施	373人	<p>(ア) ゴールデンウィーク体験教室 5月3～6日</p> <p>3日：勾玉作り教室 (@300) 16人 売上げ4,800円</p> <p>4日：拓本とり教室 (@100) 3人 売上げ300円</p> <p>5日：石器作り教室 (@300) 8人 売上げ2,400円</p> <p>6日：火起こし教室 (@100) 11人 売上げ1,100円</p> <p>(イ) キャンプ in 三殿台</p> <p>7月26・27日：(@2,000) 7家族26人 売上げ14,000円</p> <p>(ウ) 夏休み体験教室</p> <p>①勾玉作り教室 (@300)</p> <p>7月19日：10人 売上げ3,000円</p> <p>8月9日：25人 売上げ7,500円</p> <p>②土偶作り教室 (@300)</p> <p>7月20日：13人 売上げ3,900円</p> <p>③土器作り教室 (@500)</p> <p>7月21日：15人 売上げ7,500円</p> <p>土偶・土器作り野焼き 8月17日 21人</p> <p>④釣り針作り教室 (@300)</p> <p>8月10日 9人 売上げ2,700円</p> <p>⑤拓本とり&勾玉作り教室 (@400)</p> <p>8月13日：13人 売上げ5,100円</p> <p>(勾玉作りのみ参加1)</p>

		⑥火起こし体験教室 (@100) 8月14日：12人 売上げ1,200円 ⑦古代人体験教室 (@500) 8月23日 3組6人 売上げ1,500円 ⑧石器作り教室 (@300) 8月24日：6人 売上げ1,800円 (エ) 土器作り教室 ①秋 (@2,000) 9月21・28日、10月5日、11月9日 7人 売上げ14,000円 粘土1kg (@300) 25kg 売上げ 7,500円 延べ参加人数27人 ②冬 (@2,000) 1月11・18・25日、3月1日 6人 売上げ14,000円 粘土(@300)21kg 売上げ6,300 円 延べ参加人数28人 (オ) 拓本とり&凧作り (@300) 12月21日 5人 売上げ0円 ボランティア研修として 実施 (カ) 随時実施の火起こし・勾玉作り ①火起こし (@100)：141人 売上げ14,100円 ②勾玉作り (@300)：11人 売上げ3,300円
--	--	---

(3) その他利用促進事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
弓矢撃ち体験の実施	1,708人 (うち、学校 団体見学时 503人)	昨年度の試行結果、事故もなく、好評であったため、本格実施することとした。弓矢・的(イノシシの絵)はすべて手作り。無料。

(4) 展示事業

項 目	参加人数	事 業 内 容
展示解説の実施	2,200人	職員による来館者への解説を実施した(うち、1,650人は小学校6年生の団体見学)。
土器作り教室作品展	1,815人 (会期中 の入館者 数)	秋の土器作り教室作品展を展示室にて開催した(11月15日～30日)。891人 冬の土器作り教室作品展を展示室にて開催した(3月9日～22日)。924人

(5) グッズ製作・販売事業

項 目	事 業 内 容
缶バッジの製作・販売	記念品缶バッジの製作・販売 販売価格1個 100円 1,200個を追加発注した。 26年度売上げ 489個 48,900円

土器片ペンダントの製作・販売	土器片ペンダントの販売 販売価格1個 700円 26年度売上 2個 1,400円
オリジナルクリアファイルの販売	記念品オリジナルクリアファイルの販売 販売価格1枚 200円 26年度売上 244枚 48,800円
トートバッグの試作	缶バッジ・オリジナルファイルオリジナルクリアファイル・スタッフTシャツなどのデザインを採り入れたA4横型のバッグを試作し、ボランティア等に配布してモニタリングを実施した。モニタリングの結果、縦型の方が使い勝手が良い・内側に小ポケットがあると良いなどの意見があった。販売価格については、500円・1,000円という意見があった（試作品@税込み730円）。 H26年度の結論：商品化せず、さらに検討することとした。

4 三殿台考古館施設維持事業（定款第4条第1項第3号）

三殿台考古館の諸施設を日々管理し、適切に維持するとともに来館者に不快感を与えないよう運営しました。

(1) 三殿台考古館の管理

管理対象施設等	事業内容・所在地など
経常的な維持・管理	事務棟管理 所在地：磯子区岡村四丁目11-22 国指定史跡「三殿台遺跡」の管理 展示棟・竪穴住居保護棟・復元住居・遺構表示用擬木の維持管理。遺跡内草刈り、植栽剪定 職員の定期的な施設内巡回などの危機管理対策を実施した。
開館時間の拡大	平成26年度も午前9時から開館し、4月～9月は午後5時まで、10月～3月は午後4時まで開館した。 「キャンプ in 三殿台」の開催に伴い、7月26夕～27日朝まで、閉館時間帯の施設利用を行なった。 年2回、開館時間を日没まで延長し、「ダイヤモンド富士観察会」を開催した。当年度は9月29日に良好な観察機会があった。 ①9月25日～29日、参加延べ人数：23人 ②3月11日～17日、参加延べ人数：29人



委託業者による草刈り 7月20日



キャンプ in 三殿台 7月26日



ダイヤモンド富士観察会 9月29日

(2) 三殿台考古館施設自動販売機売り上げの推移

項 目	平成26年度	平成25年度	平成24年度
自動販売機売り上げ(円)	25,958	35,464	32,692

(3) 三殿台考古館施設入場者の推移(目標数17,500人)

項 目	平成26年度	平成25年度	平成24年度
三殿台考古館施設入場者(人)	17,047	15,542	15,409

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集・ 保管事業	資料収集保管事業では、整理ボランティアによる三殿台遺跡出土品基礎整理、収蔵記録資料のデジタルデータ化、三殿台遺跡北側貝塚などの出土資料のデータ化などを継続しました。また、職員により三殿台遺跡調査時測量図面の整理を実施し、遺跡全体図の再作成に着手しました。 三殿台遺跡及び周辺遺跡以外の遺跡関係の収蔵資料について、埋蔵文化財センターへの移動を継続しました。	B
常設展事業	常設展事業では、職員による学校団体・一般団体・その他来館者へ遺跡・住居跡保護棟・復元住居・北側貝塚について展示解説を実施しました。 来館者数は17,047人であり、目標17,500人の97%、前年度比110%となりました。	B
企画普及事業	市民や来館者に遺跡への理解を深めてもらえるように、展示解説や体験学習を予定どおり開催し、生涯学習活動を支援しました。また、施設の有効利用と顧客満足度を高めるため、 無料弓矢撃ち体験を本格実施することとし、平成26年度は1,708人の利用実績を上げることができました。 体験教室では、いずれも参加者に高い満足度を与えることができました。 資料整理ボランティアは延べ663人が参加しました。遺跡ガイドボランティアは延べ81人が参加し、1,161人をガイドしました。 活動参加者延べ人数目標600人の124%を達成しました。	A

収益事業

財団の自主性・自立性を高めるため、収益事業を実施しました。

歴史博物館、開港資料館、都市発展記念館、ユーラシア文化館の各施設へ来館されるお客様により快適にお過ごしいただけるよう、ミュージアムショップ商品の見直しや特別セールの実施、自動販売機の設置などの事業を行いました。

今後はミュージアムショップ事業のさらなる魅力向上に積極的に取り組み、運営の効率化と収益の向上に努めていきます。

I 歴史博物館収益事業

1 歴史博物館収益事業（定款第4条第1項第2号）

(1) ミュージアムショップの経営

- ① 勾玉キット、火打石、絵葉書、ミニタオル、企画展図録等を販売した。
- ② 企画展・イベントにあわせた商品をそろえ、開館記念日の特別セールを実施した。
- ③ オリジナル商品を開発した。

(2) 来館者駐車場の経営

(3) 自動販売機（5台）の設置

II 開港資料館収益事業

1 開港資料館収益事業（定款第4条第1項第2号）

(1) ミュージアムショップの経営

- ① 絵はがき、バンダナ、ミニタオル、関連書籍等を販売し、売れ筋商品である絵はがきの増刷をした。また、横浜の歴史を小、中学生向きに解説した『横浜のあゆみ』第2版を販売した。
- ② 開港（開館）記念日にセールを実施した。

(2) 自動販売機（1台）の設置

(3) 喫茶室の委託

来館者サービスとして附属棟において、喫茶室の営業を実施した。

店名：Au jardin de Perry（ペリーの庭で）

III 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業

1 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（定款第4条第1項第2号）

(1) ミュージアムショップの経営

- ① オリジナル商品として、各企画展図録や刊行物のほか、地図・絵葉書・メモ帳・DVD・クリアファイルなどを販売した。完売になっていた図録『横浜にチンチン電車が走った時代』を増補改定版として発行・販売した。
- ② 委託商品の販売

各企画展やフランス月間などのイベントに合わせ、商品のラインナップを大幅に変えることで、売れ筋の商品を陳列した。

(2) 自動販売機（1台）の設置

<各事業の推移>

(1) ミュージアムショップ売上の推移

項 目	平成26年度	平成25年度	平成24年度
横浜市歴史博物館（千円）	9,424	8,879	8,097
横浜開港資料館（千円）	4,381	3,888	5,202
横浜都市発展記念館 横浜ユーラシア文化館（千円）	6,240	6,055	6,560

(2) 駐車場の経営

歴史博物館の来館者用駐車場を経営しました。（館内32台、屋外140台）

項 目	平成26年度	平成25年度	平成24年度
利 用 台 数（台）	5,052	5,465	5,808
月あたり利用台数（台/月）	421	455	484
料 金 収 入（千円）	2,062	2,190	2,365

(3) 自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、各館に自動販売機を設置しました。

項 目	平成26年度	平成25年度	平成24年度
横浜市歴史博物館（千円）	309	310	360
横浜開港資料館（千円）	87	98	96
横浜都市発展記念館 横浜ユーラシア文化館（千円）	100	106	77

(4) 喫茶室の委託

施設利用者の利便を図るため、開港資料館附属棟において、喫茶室を営業しました。

項 目	平成26年度	平成25年度	平成24年度
喫茶室委託料収入（千円）	1,740	1,807	1,792

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
歴史博物館事業	ミュージアムショップの売上は、昨年比106%となり、企画展に合わせた細やかな品揃えが功を奏し増収となった。	B
開港資料館事業	ミュージアムショップの売り上げは昨年	B

	度を上回ったが、自動販売機については昨年度を下回った。	
都市発展記念館・ ユーラシア文化館 事業	ユー文とともにミュージアムショップを運営し、ほぼ前年並みの売り上げをあげた。	B